

所持人カ拒絶證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタル
 拒絶證書ヲ作ラシムルトキハ振出人以外ノ前者ニ對スル手形
 第五百二十八條 所持人カ一覽後定期拂ノ約束手形ヲ呈示
 於テ振出人カ呈示ヲ受ケタル旨又ハ其日附
 ヲ約束手形ニ記載セサリシトキハ所持人ハ呈示期間内ニ
 拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ其拒絶
 證書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス
 所持人カ拒絶證書ヲ作ラシメサリシトキハ振出人以外ノ
 前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ
 振出人カ呈示ノ日附ヲ記載セサリシ場合ニ於テ所持人カ
 拒絶證書ヲ作ラシメサリシトキハ呈示期間ノ末日ヲ以テ
 呈示ノ日ト看做ス

第五百二十九條 第四百四十六條、第四百四十九條乃至第
 四百五十一條、第四百五十三條乃至第四百六十四條、第
 四百七十一條、第四百八十條乃至第四百九十九條、第五
 百八條乃至第五百十七條及第五百二十二條ノ規定ハ約
 束手形ニ之ヲ準用ス
 第四章 小切手
 第五百二十條 小切手ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人ニ署
 名スルコトヲ要ス支拂人ノ氏名又ハ商號
 第五百二十一條 其小切手タルコトヲ示スヘキ文字
 第五百二十二條 金額
 第五百二十三條 定ノ金額
 第五百二十四條 支拂人ノ氏名又ハ商號
 第五百二十五條 受取人ノ氏名若クハ商號又ハ所持人ニ支拂フヘキ
 正ヨリ

五 單純ナル支拂ノ委託

六 振出ノ年月日若クハ商號又ハ出持人ニ支拂マセ

七 支拂地ノ刃谷又ハ商號

第五百二十二條 小切手ハ一覽拂ノモノトス

第五百二十三條 小切手ノ所持人ハ其日附ヨリ十日内ニ小

切手ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス

所持人カ前項示定メタル呈示ヲ爲サザリシトキ出ハ其前者

ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五百三十四條 小切手ノ所持人カ其前者ニ對シテ償還ノ

請求ヲ爲スニテ支拂拒絶證書ノ作成ニ代ヘ支拂人ヲシテ

呈示期間内ニ支拂拒絶ノ旨及ヒ其年月日ヲ小切手ニ記載

セシメ且之ニ署名セシムルヲ以テ是ル第四百六十四條

手形交換所ニ於テ呈示期間内ニ小切手ノ振出及ヒ支拂拒

絶アリタル旨ヲ證明シタルトキ亦同シ

第五百三十四條ノ二 前二條ノ手形交換所ハ司法大臣之ヲ

指定ス

第五百三十七條 第四百四十六條、第四百四十七條、第四百

四十九條ノ二、第四百五十二條、第四百五十二條ノ二、第

四百五十五條、第四百五十七條、第四百五十九條乃至第四

百六十四條、第四百八十三條、第四百八十四條、第四百八

十六條乃至第四百八十九條ノ二、第四百九十一條、第四百

九十二條、第四百九十五條、第五百十四條乃至第五百十五

條ノ二、第五百十五條ノ五及ヒ第五百十七條ノ規定ハ小

切手ニ之ヲ準用ス

手形ニ關スル法律ニ依リテ其支拂地及出持人ノ營業地ニ

關スル法律ニ依リテ其支拂地及出持人ノ營業地ニ

解 疑

一手形ニ關スル拒絕證書ハ商法第四百四十二條ニ依リ營業所若シ營業所ナキトキハ其住所又ハ居所ニ於テ作成シ其支拂地カ住所地下異ナルトキハ同第四百九十條ニ依リ其支拂地ニ於テ作成スヘキモノトス(一〇六號回答)

一 執達吏ハ約束手形ノ支拂ヲ求ムル爲メヨスル手形ノ呈示又ハ手形金額ノ支拂受領ノ委任ヲ受ケルコトヲ得ル手形ノ所持人ハ支拂ヲ求ムル爲メ手形ヲ振出入ニ呈示シ支拂ナキ場合ニ拒絕證書ヲ作成シ執達吏ニ委任スヘキ其委任ヲ受ケタル執達吏ハ振出人ニ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ爲スヤ否ヤヲ確メ其支拂ヲ拒絕シタル場合ニ於テ拒絕證書ヲ作ルベシ(同上)

一手形ノ所持人カ前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲サントスルニハ手形ヲ振出人ニ呈示シタルモ支拂ヲ受ケザリシコトヲ拒絕證書ニ依リテ証明セサルヘカラス執達吏ハ其ノ公ノ資格ニ於テ直接ニ觀察シタル所ニ基キ拒絕證書ヲ作ルヘキノミナラス振出人ハ設令一旦支拂ヲ拒絕セシニ拘ハラス後ニ至リ支拂ヲ爲スヲ妨ケサルヲ以テ執達吏ハ拒絕證書ヲ作ルニ先チ振出人ニ手形ヲ呈示シテ支拂ノ請求ヲ爲シ果シテ支拂ヲ爲スヤ否ヤヲ確メサルヲ得ヌ(一〇八號回答)

一 拒絕證書作成ノ期カ大祭日及ヒ日曜日其他ノ休日ニ當ルトキト雖モ拒絕證書ヲ作成スルコトヲ得ルモノトス但其末日カ大祭日等ナルコトヲ記載スルヲ要ス(一〇八號回答)

一 償還請求ノ通知ハ償還債務者ニ對シ拒絕證書作成ヲ翌日マテニ其通知ヲ發スレハ足ルモノニシテ其方法ノ如何ハ問フ處ニアラス故ニ執達吏ニ依リテ通知ヲ發シタル場合ニ執達吏カ民事訴訟法ノ送達手續ニ依ラザル場合ト雖モ無効ニアラス(一一二號判例)

一手形支拂人カ出會支拂ハサルコト及ヒ所持人ト同行シタル場合ト雖モ其當事者ヲシテ拒絕證書ニ署名セシムヘキモノニアラス(一〇六號回答)

一手形所持人カ拒絕證書ノ作成ヲ執達吏ニ委任シ執達吏カ振出人ニ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ爲スヤ否ヤヲ確メタルトキ振出人カ手形金額ヲ支拂フキヘ旨申達シタル場合ニ手形所持人同行セサルトキハ執達吏ハ其旨ヲ所持人ニ通知スヘシ(一〇八號回答)

一 執達吏カ振出人又ハ其相當ノ代理人ニ面會スルコト能ハサリシトキハ其理由ヲ拒絕證書ニ記載スルコトヲ要ス(一〇八號回答)

- 一 支拂地ニ於ケル支拂場所ノ記載アル手形ニ對スル拒絕證書ハ支拂場所ニ於テ之ヲ作成スルコトヲ得(六一五號判例)
- 一 拒絕證書ニハ手形所持人カ請求ヲ爲シ及ヒ引受人又ハ支拂人カ請求ニ應ジ難キ旨ヲ答辯ヲ爲シタルコトヲ執達吏ニ於テ實際見聞シタル上記載スルチ相當トス(一四八號決議)
- 一 手形ニ支拂場所ノ記載アル場合ニハ其支拂ノ場所ニ於テ振出人ニ對シ(支拂ノ場所ノ主人ニ對セズ)支拂ヲ求ムル爲メニ手形ヲ呈示スヘキモノニシテ隨テ拒絕證書ヲ作成スルニ當リテモ支拂ノ場所ニ於テ振出人ニ對シテ手形ヲ呈示シ支拂ヲ爲スヤ否ヤヲ確メ若シ支拂ヲ拒絕スルトキハ支拂拒絕證書ヲ作成スルキモノトス(一三八號回答)
- 一 商法第四百四十二條ハ手形ノ呈示拒絕證書ノ作成其他手形上ノ權利ノ行使又ハ保全ニ付キ利害關係人ニ對シテ爲スヘキ行爲ヲ爲スヘキ場所ニ關スル規定ニシテ同法第四百九十條ハ手形ノ呈示及ヒ拒絕證書作成ノ所爲ヲ爲ス

- 一 夫キ地域ニ關スル規定ナリ故ニ右兩條ハ原則ト例外規定トノ關係アルコトナシ(一三八號判例)
- 一 約束手形ノ振出人カ支拂場所ヲ特ニ其營業所以外ニ定メタル場合ニ於テ支拂拒絕證書ヲ其特定ノ支拂場所ニアラサル振出人ノ營業所ニ於テ作成シタルハ無効ナリ(一四四號判例)
- 一 手形ハ裏書禁止ノ記載アル場合ヲ除ケ外當然裏書ニ依リテ讓渡スルコトヲ得(一七五號判例)手形金請求ノ訴訟提起ハ裏書ノ妨ケト爲ラス又商法第四百八十三條支拂ハ手形引換ニ非ラサレハ之ヲ爲スコトヲ要セストノ規定以テ手形債務者ニ附與セラレタル權利ニシテ強制執行ノ場合ト雖モ手形債務者ハ依然此權利ヲ保持スルコト勿論ナリトス(一五六號判例)
- 一 支拂ノ地カ支拂義務者ノ住所地下異ナル場合ニ於テハ手形ノ所持人カ前者ニ對シテ償還請求ヲ爲サント欲スルトキハ手形ノ呈示及ヒ拒絕證書ノ作成ハ指定ノ支拂地ニ於テ支拂義務者ニ出會スルチ得タルト否トニ拘ハラズ必ズ支拂地ニ於テ爲スコトヲ要ス(一三八號判例)
- 一 拒絕證書ヲ作成スルニ當リ拒絕者ニ面會スルコト能ハサル場合ニ於テハ唯拒絕者ニ面會スルコト能ハサル理由ヲ記載スレハ足り請求ノ趣旨ヲ記載

一 執達吏カ委任ヲ受ケテ拒絕證書ヲ作成スル場合ニ於テハ商法第五百十五條第三號ニ規定シタル事項ハ執達吏自ラ干與シタル事項ヲ記載スヘキモノニシテ委任者ト拒絕者トノ間ニ爲シタル過去ノ行爲ニ付キ單ニ委任者ノ陳述ニ基キ之カ記載ヲ爲スヘキモノニアラス(一六六號判例)

一 約束手形ノ所持人カ滿期日ニ支拂ヲ求ムル爲メ支拂場所ニ到ルモ支拂義務者タル出人死亡ノ爲メ之ニ面會ヲ得サルカ如キ場合所持人カ其死亡事實ヲ知ラサルニ於テハ振出人ヲ拒絕者トシテ其氏名ヲ拒絕證書ニ記載スルモ不當ニアラス(一六八號判例)

一 執達吏カ其管轄地外ニ居住スル手形支拂人ニ對スル償還請求ノ通知ヲ爲スルモ可ナリト雖モ郵便ニ依ルトキハ其通知ノ方法ハ郵便ニ依ルモ亦送達ニ依ル場合ニ於テハ委任執達吏自ラ其權限ヲ有セサル地ニ於テ送達ヲ爲ス必要アリトキハ其地ノ執達吏ヲシテ送達ヲ爲サシムル爲メ裁判所ニ囑託スルコトヲ要スルモノトス(一七〇號決議)

一 手形金額償還請求通知ノ方法ハ法律ニ之ヲ規定セサルニ依リ被通知者ニ宛

テ通知書ヲ郵送スルモ不可ナク又郵送スル場合ハ何人ヲシテ之ヲ郵便ニ付シタルモ法律上妨ケナキカ故通知者ノ依頼ヲ受ケ郵便ニ付シタル者カ執達吏タルト否トニ因リ發送ノ效力ニ何等ノ消長ナキモノトス(一九〇號判例)

一 約束手形ノ振出人カ本素自己ノ營業所ト爲セル以外ノ場所ヲ其支拂ノ場所ト定メタルトキハ其場所ニ於テ支拂ニ關スル所爲ヲ爲スハ當然ナルカ故ニ同所ニ於テ拒絕證書ノ作成ヲ爲スニ振出人ノ承諾ヲ得ルコトヲ要セサルモノトス(二〇一號判例)

一 確定セル日ヲ以テ定メタル滿期日及ヒ翌日カ共ニ休日ニ當ルモ支拂ノ爲メニスル手形ノ呈示ヘ其滿期日ニ之ヲ爲シ拒絕證書モ亦其後二日內ニ作成セサルヘカラス(二〇六號決議)

一 拒絕證書ニハ登簿番號ヲ付スルコトヲ要セス但執務ノ便宜上之ヲ付スルモ差支ナシ(二二八號回答)

一 改正商法第五百十七條第一項ノ記載事項ハ何レノ手形ナルヤヲ特定スル爲メ必要ナル記載事項ナルニ付贈本ノ前部タルト後部タルト又上部タルト下部タルト子間ハハ執務上ノ便宜ニ依ルヘシ(同上)

- 一 同第五百十七條第一項第四號ノ支拂地ニハ同第四百五十四條ノ所謂支拂地ニ於タル支拂ノ場所ヲ記載スルヲ要セス(同上)
- 二 同第四百五十三條ノ場合ニハ支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地ヲ以テ同第五百二十六條ノ場合ニハ振出地ヲ以テ支拂地トナスニ因リ拒絕證書ノ體本ニ同第五百十七條第一項第四號ノ支拂地トシテ之ヲ記載スヘキモノトス(同上)
- 一 同第四百八十條ノ規定ニ依リ手形ノ所持人ガ豫備支拂人ガ引受ヲ求メタル場合ニ於テ豫備支拂人ガ引受ヲ爲サ、ルコトハ同條第二項ノ單純ナル引受ヲ爲サ、ル場合ニ當然包含スヘキニ付更ニ拒絕證書ヲ作成スヘキモノトス但同條ノ場合ニ於テ豫備支拂人ガ引受ヲ爲スニハ假令一覽後定期拂入爲替手形ニ付テモ日附ノ記載ヲ必要トセサルヘキニ付之ヲ記載セサルモ適法ナリ(同上)
- 一 同第四百六十七條ニ依リ引受拒絕證書ヲ作りタル場合ニ於テ豫備支拂人ガ引受ヲ爲サ、リシトキハ同第五百條ニ依リ其引受拒絕證書ニ單ニ其旨ヲ記載スレハ足レルモノニアラス同第五百十五條ノ記載事項ニ準ジ記載スルヲ相當トス(同上)

- 一 同第四百四十二條第二項ニ依リ官署又ハ公署ニ間合ヲ爲シタル結果拒絕者ノ營業所、住所又ハ居所カ職務執行ノ區域外ナルコトヲ判明シタルトキハ拒絕證書ヲ作成スルコトヲ得ス(同上)
- 一 改正商法ニ依ル拒絕證書ニハ番號及ヒ「何々拒絕證書」ナル文字ノ記載ヲ要セス但ハ番號ハ執務ノ便宜上之ヲ記載スルモ差支ナシ又「何々拒絕證書」ナル文字ハ拒絕證書ノ趣意ニ依リ證書ノ性質自ラ明ナルヘキニ由リ之ヲ記載スルノ必要ナカルヘシ(同上)
- 一 手形カ印刷シタル用紙ヲ用井其裏面ハ全部裏書ノ際記載スヘキ不動文字ヲ印刷シテリテ拒絕證書ノ記載ヲ爲シ得ヘキ餘白ナキ場合ノ如キハ附箋ニ依リ相當ノ記載ヲ爲シ印刷セル不動文字ハ墨線ヲ以テ抹消シ之ニ捺印スルヲ相當トス(同上)
- 一 商法第五百十五條ノ四ノ寫本ニハ如何ナル用紙ヲ用ウルモ差支ナク又其寫本ノ形狀ハ手形若クハ其體本ノ記載ト同一ナルヲ要セス而シテ同條ノ寫本ノ作成ハ拒絕證書作成ノ囑託中ニハ當然包含スヘキモノニアラス(同上)
- 一 同第五百十七條第二項ノ拒絕證書體本ニハ同條第一項各號ノ事項ヲ記載スルヲ相當トス(同上)

第五編 海商

第一章 船舶及船舶所有者

第五百二十八條

本法ニ於テ船舶トハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

本編ノ規定ハ端舟其他櫓擢ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシ

テ櫓擢ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

第五百四十三條

差押及ヒ假差押ハ發航ノ準備ヲ終ハリタ

ル船舶ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ得ス

但其船舶カ發航ヲ爲ス爲メニ生シタル債務ニ付テハ此限

第五百四十四條

船舶所有者ハ船長カ其法定ノ權限内ニ於

テ爲シタル行爲又ハ船長其他ノ船員カ其職務ヲ行フニ當

タリ他人ニ加ヘタル損害ニ付テハ航海ノ終ニ於テ船舶

運送賃及ヒ船舶所有者カ其船舶ニ付キ有スル損害賠償又

ハ報酬ノ請求權ヲ債權者ニ委付シテ其責ヲ免ルルコトヲ

得但船舶所有者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ雇傭契約ニ因リテ生シタル船員ノ權利ニ付

テハ之ヲ適用セス

第五百四十八條 船舶共有者カ新ニ航海ヲ爲シ又ハ船舶

大修繕ヲ爲スヘキコトヲ決議シタルトキハ其決議ニ對シ

テ異議アル者ハ他ノ共有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ

持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲サント欲スル者ハ決議ノ日ヨリ三日内ニ

他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコト

ヲ要ス但此期間ハ決議ニ加ハラサリシ者ニ付テハ其決議

ノ通知ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第三章 船員ノ登日ヨリノ支取

第五節 船長ニ賦スル責任

第五百七十四條 船舶所有者ハ何時モテ船長ヲ解任スルコトヲ得但正當ノ理由ナクシテ之ヲ解任シタルトキハ船長ハ船舶所有者ニ對シ解任未因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得其責ニ據ル時當分則モ以テ自己ノ船長ハ船舶共有者ナル場合ニ於テ其意ニ反シテ解任セラレタルトキハ他ノ共有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ヲ持分ヲ買取漲付キコトヲ請求スルコトヲ得

船長カ前項ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ遲滞ナク他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第五百七十五條 船長ハ其責ニ據ル時當分則モ以テ自己ノ船長ハ船舶共有者ナル場合ニ於テ其意ニ反シテ解任セラレタルトキハ他ノ共有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ヲ持分ヲ買取漲付キコトヲ請求スルコトヲ得

第五百九十四條 船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ヲ爲シ

第五百九十五條 船舶所有者ハ遲滞ナク備船者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第五百九十六條 船舶所有者ハ遲滞ナク備船者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第五百九十七條 備船者ハ運送品ヲ船積スルハキ期間ヲ定ムル場合ニ於テ其其期間ハ前項ノ通知ヲ發スル日ヨリ起算スル其期間經過ノ後運送品ヲ船積シタルトキハ船舶所有者ハ特約ナキトシテ雖モ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第五百九十八條 前項ノ期間中キハ不可抗力ヲ因リテ船積ヲ爲シ得ザル日ヲ算入セズ

第五百九十九條 船長カ第三者ヨリ運送品ヲ受取ルハ其

第六百四條 於テ其者ヲ確知スルコト能サルトキ又ハ其者カ運送品ヲ船積セサルトキハ船長ハ直チニ備船者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ船積期間内ニ限リ備船者ニ於テ運送品ヲ船積スルコトヲ得

第六百五條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ運送品ヲ陸揚スルニ必要ナル準備カ整頓シタルトキハ船長ハ遲滯ナク荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

運送品ヲ陸揚スルキ期間ノ定アル場合ニ於テハ其期間ハ前項ノ通知アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ陸揚シタルトキハ船舶所有者ハ特約ナキトキト雖モ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ陸揚ヲ爲スコト能ハ

第六百六條 荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ怠リタルトキ船長ハ之ヲ供託スルコトヲ得此場合ニ於テハ遲滯ナク荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第六百七條 荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ怠リタルトキ船長ハ之ヲ供託スルコトヲ得此場合ニ於テハ遲滯ナク荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第六百十條 船舶所有者ハ第六百六條第一項ニ定メタル金額ノ支拂ヲ受クル爲メ裁判所ノ許可ヲ得テ運送品ヲ競賣

第六百五十二條ノ十六 救助料ノ請求權ハ救助ヲ爲シタル時ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅スルヲ以テ第六百七十四條ノ被保險者カ委付ヲ爲サント欲スルトキハ第三ケ月内ニ保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス前項ノ期間ハ第六百七十一條第一號、第三號及ヒ第四號ノ場合ニ於テハ被保險者カ其事由ヲ知ルタル時ヨリ之ヲ起算ス

再保險ノ場合ニ於テハ第一項ノ期間ハ其被保險者カ自己ノ被保險者ヨリ委付ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス第六百七十八條ノ被保險者ハ委付ヲ爲スニ當タリ保險者ニ對シ保險ノ目的ニ關スル他ノ保險契約竝ニ其負擔ニ屬スル債務ノ有務及ヒ其種類ヲ通知スルコトヲ要ス

保險者ハ前項ノ通知ヲ受ケルマテハ保險金額ノ支拂ヲ爲スコトヲ要セス

保險金額ノ支拂ニ付キ期間ノ定アルトキハ其期間ハ保險者カ第一項ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第七條 本法施行前ニ株式會社ノ發起人カ定款ヲ作りタル場合ニ於テハ其設立ニハ從前ノ規定ヲ適用ス

前項ノ規定ハ第二百二十六條ノ二及ヒ第四百四十七條ノ二乃至第四百四十二條ノ四ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第八條 第二百五十二條第三項及ヒ第二百五十三條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ第二百五十二條第一項ノ催告ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第二十五條 第四百七十八條乃至第四百八十八條ノ二及ヒ

第四百八十八條石四ノ規定ハ本法施行前ノ第一ノ質入裏書アリタル之質入證券ノ所持人カ本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ其證券ヲ呈示スル場合ニモ亦之ヲ適用スルモ亦之ヲ適用スル

第三十條 本法施行前ニ振出シタル爲替手形ニ付キ其施行後ニ引受拒絕證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テハ擔保請求ノ通知ヲ發スル百十ヲ要セス本法施行後ニ擔保ヲ供セザル爲メ拒絕證書ヲ作ラシメタル場合亦同クス

第三十一條 第四百八十七條乃至第四百八十八條ノ二ノ第四百八十八條ノ四及ヒ第四百八十九條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル爲替手形ニ付キ所持人カ本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スル場合ニモ亦之ヲ適用スル

第三十二條 第五百十五條乃至第五百十五條ノ五及ヒ第五

百十七條第一項ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル爲替手形ニ付キ其施行後ニ拒絕證書ヲ作ル場合ニモ亦之ヲ適用スル

第三十三條 前二條ノ規定ハ約束手形ニ之ヲ準用スルモ亦之ヲ適用スル

第三十四條 第五百三十三條ノ三及ヒ第五百三十四條第二項ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル小切手ニ付キ所持人カ本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スル場合ニモ亦之ヲ適用スル

附則第三十條及ヒ第三十二條ノ規定ハ小切手ニ之ヲ準用スル

◎商法施行法 (明治三十一年三月九日法律第四十九號)

第十七條 明治十年第六十六號布告利息制限法第五條ノ

規定ハ商事ニハ之ヲ適用セズ
 第一百八條 商法施行前ニ設定シタル質權ノ實行ニ付テハ別段ノ意思表示アリタル場合ヲ除ク外競賣法ノ規定ヲ適用ス但取引所ノ相場アル有權證券其他ノ商品ニ在リテハ執達吏ハ取引所ニ於テ之ヲ賣却スルコトヲ得
 前項ノ規定ハ留置權者カ其留置物ヲ賣却スル場合ニ之ヲ準用ス
 第一百二十五條 本外國ニ於テ爲シタル手形行爲ノ要件ハ行爲地ノ法律ニ依ル
 前項ノ規定ニ拘ハラズ外國ニ於テ爲シタル手形行爲カ日本ノ法律ニ定メタル要件ヲ具備スルトキハ外國ノ法律ニ依ルハ要件ヲ具備セザルトキト雖モ爾後日本ニ於テ爲シタル手形行爲ハ有效トス日本人カ外國ニ於テ日本人ニ對

シテ爲シタル手形行爲カ日本ノ法律ニ定メタル要件ヲ具備スルトキ亦同シ
 第四百二十七條 明治二十三年法律第五十九號商法施行條例

第二十條、第二十四條、第三十五條、第三十五條乃至第四十五條及ヒ第四十八條乃至第五十條ヲ除ク外本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但第二十一條乃至第二十三條及ヒ第五十一條ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依ルヘキ場合ニ於テハ仍ホ其效力ヲ存ス

◎商法中署名スヘキ場合ニ關スル件

(明治三十三年二月二十六日法律第十七號)

商法中署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得

◎小商人ノ範圍ニ關スル件

(明治三十二年六月十五日勅令第二百七十一號)

商行爲ヲ爲スヲ業トスルモ資本金額五百圓ニ滿タサル者

ハ之ヲ小商人トス

◎商附中譽各財ハ其組合ニ關スル件

此勅令ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎舊商法破産編

(明治二十三年四月二十六日法律第三十二號)

第三編ノ破産ニ出テ第二十一新法至第二十三新法又其

第四十第一章ノ破産宣告新法至第五十新法ノ條々ハ本編ニ

第九百七十八條ニ商人カ支拂ヲ停止シタルトキハ裁判所

業本人又ハ債權者カ申立ニ因テ決定ラ以テ破産ヲ宣告スル

第三十二條法律第四十九號ヲ以テ全條改正)

業夫對以テハ即時抗告ヲ爲ス可ト又得此裁判ニ據リテ再當審

第三章 破産ノ效力

第九百八十五條 破産宣告ニ依テ破産者ハ破産手續ノ繼續

申自己ノ財産ヲ占有ニ管理シ及ヒ處分スル權利ヲ失フ

破産宣告ノ日ヨリ以後破産者ハ爲シタル支拂皆當然無効トス

業夫權利行爲及ヒ破産者ニ對シタル支拂皆當然無効トス

破産者ハ動産、不動産ニ關スル訴及ヒ執行ハ特リ管財人

東京又ハ管財人ニ對シテ之ヲ起シ又ハ繼續スルコトヲ得

第九百八十六條 破産者ハ營業ノ用ニ供スル動産ニ對シテ

不動産賃貸ヲ爲スニハ強制執行ハ三十日間之ヲ猶豫ス

業但賃貸トス其賃貸物ヲ取戻ス權利ヲ有スル者ハ此限ニ

在ラス

第九百八十七條 各債權者ハ優先權ヲ存スルニ非サレハ

破産處分中破産者ノ財産ニ對シテ強制執行ヲ爲スルトヲ得ヌ

第九百八十八條 辨濟期限ノ末タ至ラサル破産者ノ債務ハ破産宣告ニ依リテ辨濟期限ニ至リタルモノトシテ、
債爲替手形ノ引受人又ハ引受ナキ爲替手形ノ振出人又ハ約束手形ノ振出人カ破産宣告ヲ受ケタルトキハ其償還義務ニ付テモ前項ノ規定ヲ適用ス

第九百八十九條 財團ニ對シテハ破産宣告ノ日ヨリ利息ヲ生スルモノトシテ止ム但抵當權質權其他ノ優先權ヲ以テ擔保セラレタル債權ハ其擔保物ノ賣却代金ニ滿ツルマテヲ限リテ利息ヲ生スルモノトシテ得ル
第三章 別除權
第九百九十七條 破産者ノ動産又ハ不動産ニ對シテ抵當權

質權其他ノ優先權ヲ有スル債權者ハ財團ヨリ先ツ辨償ヲ受ケタルニ非サレバ其擔保物ノ賣却代金ヨリ費用利息及ヒ元金ノ支拂ヲ受クル爲メ別除ノ辨償ヲ請求スルコトヲ得若シ其實拂代金ノ剩餘アルトキハ買主之ヲ財團ニ拂込ム可シ

第一千一條 破産者ノ財産ニシテ民事訴訟法ニ從ヒ強制執行ノ爲メ差押シタルモノトシテ得サルモノハ之ヲ財團ニ加フコトヲ得ヌ但債權者ニ優先權ノ屬スルモノニ付テハ第九百九十七條ノ規定ニ從フ
第十六章 保全處分
第一千二條 裁判所ハ破産宣告ト同時ニ債務者ノ動産ノ封印ヲ命ス(二十一年法律第九號ヲ以テ改正)
會社ニ在テハ連帶無限ノ責任ヲ負ヘル總社員ノ財産ニ對

右ノ處分ヲ行ハズニテ其ノ責任ヲ負フハ其ノ職務員ハ相續ニ據
第一千五條(一)破産者ヲ逃走シ若クハ其ノ財産ヲ隱匿スルノ虞ア
ルモノト認ムル時ハ裁判所ハ其ノ監守ヲ命ズルコトヲ得且得テ四
十六年法律第九號ヲ以テ改正)

會社ニ在テ其業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ニ對シテ
右ノ處分ヲ行ハズニテ其ノ責任ヲ負フハ其ノ職務員ハ相續ニ據
破産者ニ對シテ裁判所ハ許可ヲ受タルニ非ズニテ其住地又離ル
ルモノト認ムル時又裁判所ハ何時其ノ破産者ヲ引致シ命ズ
ルコトヲ得

第一千五條(二)管財人ハ債務者ノ財産ヲ財産目録ニ載シ且之ヲ
占有スルモノト直チニ其封印ヲ解除シ可シ前条ノハハロイ
第一千一條ニ依テ財團ヲ加テルコトヲ得タル物及財團
爲テ其ノ即時交換價又ハ繼續利用ヲ封印ノ爲メ妨グラ

ルル物ハ封印ヲ爲ササルコトヲ得此等ノ物ハ直チニ財
産目録ニ載セ管財人ノ之ヲ占有スルモノト要ス
債務者ハ商業帳簿ハ即時之ヲ管財人ニ交付シ且其帳簿ノ
現狀ハ破産主任官ニ認證スルモノト如シ其主任官ハ其
特ニ高價ナル物ハ即時之ヲ管財人ニ交付シ又ハ一時之ヲ
裁判所ニ引取テ其後主任官ノ監督ヲ受ケルモノト認證
第一千九條 財團ノ管理及ヒ交換價
第一千九條 其管財人ハ勤勞對シテ報酬ヲ財團ニ對シテ立會之
團支拂ヒ其額ハ破産裁判所之認定ム
第一千四條 又財産目録ハ裁判所職員又ハ其地警察官更メ立
會ヲ以テ管財人ノ之ヲ作り若シ必要アルトキハ破産者ヲモ
立會ハシテ其合ニ其ノ責任ヲ負フモノト認證スルモノト
破産者ニ屬スル總括ノ財産ハ財團ニ組入ル可ク又ナルモ

以下雖モ其價額ヲ明示シテ之ヲ財産目録ニ記入スルコト
 ヲ要ス必要ナル場合ニ在テハ其價額ハ鑑定人ヲシテ之ヲ
 鑑定セシムルハ其ノ非ニ要マズハ其ノ如クハ其ノ如クモ
 財産目録及ヒ之ニ關スル調書ノ認證ア其謄本ヲ公衆ノ展
 閱ニ供スル爲メ裁判所ニ之ヲ備スルハ其ノ如クハ其ノ如クモ
 檢察官其見込ニ因リ職權ヲ以テ財産目録ヲ作成シ立會之
 コトヲ得ルコトヲ要スルハ其ノ如クハ其ノ如クモ
 第一千十八條 不動産ハ破産主任官ノ認可ヲ受ケテ之ヲ競賣
 スルコトヲ要スルハ其ノ如クハ其ノ如クモ
 不動産ハ競賣スルヲ通例トスト雖モ破産主任官ノ認可ヲ受
 ケタルトキハ相對ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得且其時競賣
 競賣ノ手續ハ總テ民事訴訟法ノ規定ニ依ルコトヲ得
 第六章 債權者

第一節 債權ノ届出及ヒ確定

第一千十三條 破産者ノ總債權者ハ破産決定ノ公告ニ因リ
 債權届出ノ期間ニ其債權ヲ破産主任官ニ届出シ可キ旨ノ
 催告ヲ受ケタルモノトス其届出ニハ各債權ノ合法ノ原因
 及ヒ請求金額若シ優先權アルモノハ其權利ヲ明記シ且證
 據書類又ハ其謄本ヲ添フ可キ旨ノ如クハ其ノ如クモ
 他所ニ住スル債權者ハ裁判所所在地ニ代人ヲ置ク可シ其
 債權及ヒ代人任置ノ届出ハ書面ヲ以テ又ハ其調書ニ筆記セ
 シメテ之ヲ爲スコトヲ得書面ヲ以テスル場合ニ在テハ二
 通ヲ差出スコトヲ要スルハ其ノ如クハ其ノ如クモ
 所在ノ知レタル債權者ハ右ノ外特ニ裁判所ヨリ書面ヲ以
 テ其債權届出ノ催告ヲ受ク然レトモ其書面カ債權者ニ達
 セサルモ此カ爲メ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第八章 配當
 第千四十九條 破産手續終結後ハ辨償ヲ受ケル債權者
 破産手續ニ於テ確定シタルモノニ因リテ得タル權利名義ニ
 基キ其債權ヲ債務者ニ對シテ無限ニ行フコトヲ得
 第十七章 支拂猶豫
 第千六十三條 債務者有效ナル支拂猶豫ヲ得ル者トモテ猶
 豫期間中其以前取結ル債權者ハ商取引ヨリ生スル債權ト爲
 強制執行及業務ヲ履行ニ關シテハ主任判事ヲ監督受
 約ノ履行及業務ヲ履行ニ關シテハ主任判事ヲ監督受
 約者ト受給スルモノニ其出出ニハ各債權者合志取因
 債務者ハ保證人及共同義務者ト義務ハ右猶豫ヲ爲スニ
 變更スルコト無シ

◎舊商法施行條例

(明治二十三年八月七日) 法律第五十九號

第五十條 商法及本條例ニ依リ發スル命令書ヲ送達スル
 場合ニ於テ其手續ハ民事訴訟法ノ手續ニ從フ
 第四十九條 商法第千三條第三項ニ依リ債務者ヲ引致スル
 場合ニ於テ其手續ハ民事訴訟法ノ手續ニ從フ
 刑事訴訟法ニ定メタル引致執行ノ手續ニ準ス(同上)

◎擔保附社債信託法

(明治三十八年三月) 法律第五十二號

第七十八條 信託契約ニ依ル擔保權ハ總社債權者ノ爲ニノ
 之ヲ行使スルコトヲ得
 第七十九條 委託會社ハ定期ニ社債ノ一部ヲ償還スル爲メ
 合ニ於テ其ノ償還ヲ遲延シ一ヶ月ヲ經過シ後同社債ノ受
 舊商法施行條例、擔保附社債信託法

託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ一定ノ期間内ニ支拂
 ヲ爲スヘキ旨及其ノ期間内ニ仕拂ヲ爲ササルモキハ社債
 ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失ハシムル旨ヲ委託會社ニ催告
 スルコトヲ得
 委託會社カ前項ノ期間内ニ支拂ヲ爲ササルトキハ社債ノ
 總額ニ付期限ノ利益ヲ失フ
 第一項ノ催告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘキ事ニ準ズ(同上)
 第八十三條 受託會社ハ總社債權者ノ爲ニ付與セラレタル
 執行力アル正本ニ基キ擔保物ニ付強制執行ヲ爲シ又ハ競
 賣法ニ依ル競賣ヲ申立若ハ委任ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ債權者ニ對スル異議ハ受託會社ニ對シ
 テ之ヲ主張スルコトヲ得

○舊商法施行條例

(明治二十二年八月十六日)

○民事訴訟費用法

(明治二十二年八月十六日)

第一條 民事訴訟法ノ規定ニ於テ訴訟費用ハ以下數條ノ
 規定ニ從ヒ之ヲ算定ス
 第二條 訴狀其他總テ書類ノ書記料ハ半枚十二行二十字詰
 ニ付キ金二錢五厘トス但半枚ニ滿タサルモノモ亦同シ
 圖面ハ一葉ニ付金十錢トス但別ニ測量ヲ要シタルトキハ
 其測量費ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル
 第三條 翻譯料ハ半枚十二行二十字詰ニ付キ金五十錢トス
 但半枚ニ滿タサルモノモ亦同シ
 第四條 民事訴訟用印紙法ニ從ヒ貼用シタル印紙ノ費額ハ
 其代價ニ依ル
 第五條 執達吏ノ手数料及ヒ立替金ハ執達吏手数料規則ノ

民事訴訟費用法

規定ニ從テ更ニ手廻料又ハ立替金ハ特許吏手廻料賦明

第六條 郵便料、電信料及ヒ運送料ハ其實費ニ依ル

第七條 官報、公報及ヒ新聞紙ヲ以テ公告シ名譽公告料ハ

各其定價ニ依ル

第八條 民事訴訟法第二百二十七條ニ規定テ從ヒ辯護士ノ附

添テ命シタル者ハ其報酬ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル

所ニ依ル

第九條 當事者ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢トシ但滞

在費ヲ給スル場合ニ於テハ此日當ヲ二十五錢トス

第十條 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢トス但滞在

費ヲ給スル場合ニ於テハ此日當ヲ給スル所ノ地ヨリ來リ滞

第十一條 鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十

錢乃至五圓ノ範圍内ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所

鑑定又ハ通辯ニ付キ數多ク時間又ハ特別ノ技能若クハ費

費用ヲ要スル者ハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給スル

第十二條 當事者ノ滞滞在費ハ滿八里以外ノ地ヨリ來リ滞

滞在費ハ一日金五十錢トシ證人、鑑定人及ヒ通事ノ

滞滞在費ハ一日金五十錢トシ證人、鑑定人及ヒ通事ノ

滞滞在費ハ一日金五十錢トシ證人、鑑定人及ヒ通事ノ

滞滞在費ハ一日金五十錢トシ證人、鑑定人及ヒ通事ノ

滞滞在費ハ一日金五十錢トシ證人、鑑定人及ヒ通事ノ

滞滞在費ハ一日金五十錢トシ證人、鑑定人及ヒ通事ノ

滞滞在費ハ一日金五十錢トシ證人、鑑定人及ヒ通事ノ

滞滞在費ハ一日金五十錢トシ證人、鑑定人及ヒ通事ノ

滞滞在費ハ一日金五十錢トシ證人、鑑定人及ヒ通事ノ

滞滞在費ハ一日金五十錢トシ證人、鑑定人及ヒ通事ノ

旅費及滞任費等證人ニ準スル實狀調劑ヲ爲スニ

第十五條 本法ニ定メサル必要ノ費用ハ其實費ニ依ル

第十六條 強制執行及非訟事件ニ關スル費用ハ執達吏手

數料規則ニ定メタルモ之ヲ除ク外前數條ノ規定ヲ準用シ

テ之ヲ算定ス

強制執行及非訟事件ニ關シテ保管人若クハ管理人ヲ任

命シタルトキハ其費用ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ

依ル

第十二條 當事者ハ訴訟費用ノ擔當人ニ爲ル

◎民事訴訟用印紙法 (明治二十三年八月十六日法律第六十五號)

第十九條 民事訴訟ノ書類ニハ以下數條ノ規定ニ從ヒ其正本

ニ印紙ヲ貼用ス可シ但裁判所書記ニ目述シテ調書ヲ作ラ

シタルトキハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第三條 財產權上ノ請求并係第一審ノ訴狀并ハ訴訟物ノ

價額ニ應シ左ノ區別并從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ (四十三年

法律第十五號又以テ本條中改正)

第一 價額五圓以下ノ訴訟物ノ價額ニ應シテ二十五錢

ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第二 價額五圓以上十圓以下ノ訴訟物ノ價額ニ應シテ四十錢

ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第三 價額十圓以上二十圓以下ノ訴訟物ノ價額ニ應シテ八十錢

ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第四 價額二十圓以上五十圓以下ノ訴訟物ノ價額ニ應シテ一圓八十錢

ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第五 價額五十圓以上七十五圓以下ノ訴訟物ノ價額ニ應シテ二圓五十錢

ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第六 價額七十五圓以上百圓以下ノ訴訟物ノ價額ニ應シテ三圓五十錢

ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第七 價額百圓以上二百五十圓以下ノ訴訟物ノ價額ニ應シテ五圓

ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第八 價額二百五十圓以上五百圓以下ノ訴訟物ノ價額ニ應シテ十圓

ノ印紙ヲ貼用ス可シ

同 二千五百圓マテ

同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎キ三圓ヲ加フ

同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎キ三圓ヲ加フ

訴訟物ノ價額ヲ算定スルニハ民事訴訟法第三條乃至第六條ノ規定ニ從フ

第三條 財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ付テハ其訴訟物ノ

價額百圓ト看做シ印紙ヲ貼用ス可シ

財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ト其訴訟ニ由テ生スル財産

權上ノ訴訟ト併合スルトキハ其多額ナル一方ノ訴訟物ノ

價額ニ依リ印紙ヲ貼用ス可シ

第四條 本訴ト反訴ト其目的方同一ノ訴訟物ナルトキハ反

訴ト訴訟ニ印紙ヲ貼用スルヲ要セズ

第五條 控訴狀ニハ第二條ノ規定ニ從ヒ其半額ト告狀ニハ

其金額ニ印紙ヲ加貼ス可シ又ハ申請ニシテ

第六條 申支拂命令ノ申請ニシテ訴訟物ノ價額十圓以下ナル

場合ニ於テハ二十圓ヲ超過スル場合ニ於

テハ第二條ニ依リ第廿番訴訟狀ニ貼用ス可キ印紙金額ノ

半額ノ印紙ヲ貼用ス可キ

第六條 債權債務ノ申立又ハ家賃債權債務ノ申立

第六條 債權債務ノ申立又ハ申請ニシテ訴訟物ノ價額

又ハ請求ノ價額二十圓以下ナル場合ニ於テハ二十圓ノ印

紙ヲ貼用ス可キ

第六條 期日ノ變更、辯論ノ延期又ハ辯論期日ノ指定ノ申立

二 中斷又ハ中止シタル訴訟手續ノ受繼ノ申立

三 從參加ノ申請

四 息避以申請
 五 和解又申立
 六 費用額確定ノ申請
 七 假執行宣言ノ申立
 八 強制執行ヲ停止若クハ續行又ハ執行處分ヲ取消ヲ申
 九 立米ノ贈與二十圓以下ノ遺言ニ付テハ遺言ノ執行
 十 配當要求ニ付テハ申立又ハ申請ニ付テハ補償ノ贈與
 十一 家資分散ノ申立又ハ家資分散者ノ復權ノ申立
 十二 強制競賣又ハ強制管理ヲ申立者對テ遺言ノ執行
 十三 債權又ハ他ノ財產權差押ノ申請ニ付テハ附金
 第十四 民事訴訟法第七百三十二條乃至第七百三十四條
 第十五 申立附命令ノ申請ニ付テハ補償ノ贈與十圓以下ノ遺言
 第十六 三項左ニ掲クル申立又ハ申請ニシテ訴訟物ノ價額

又ハ請求ノ價額三十圓以下ナル場合ニ於テハ五十錢ノ印
 紙ヲ貼ルニ付テハ超過スル場合ニ於テハ十圓ノ印紙ヲ貼用
 紙ヲ貼ル(同上) 其由前條ニ付テハ申立又ハ申請ニ付テハ
 審判抗告或ハ附屬ノ附屬又ハ附屬ノ附屬又ハ附屬ノ附屬
 第二 新故障或ハ申立ニ付テハ其書面ニ蓋出スルハ附屬
 三 證據調出申立或ハ附屬ノ附屬又ハ附屬ノ附屬
 四 假差押又ハ假處分ノ申請ニ付テハ其補償額或ハ附屬
 五 判決送達ノ申立ニ付テハ其補償額或ハ附屬
 六 執行力ヲ求ムル申立但シ通以上ヲ求ムルハ
 第七條ノ和解及ヒ督促手續ヲ付テ民事訴訟法第三百八十六
 條第三項及ヒ第三百九十一條ノ規定ニ依テ訴訟物ノ價額
 屬スルトキハ第二條第三條ノ規定ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス

民事訴訟法第三百九十九條ノ規定ニ依リ訴訟区域裁判所ノ繫
 屬スル場合又ハ第五百九十九條第三項ノ規定ニ依リ地方
 裁判所ニ訴ヲ起ス場合ニ於テハ第六條ニ依リ貼用シタル
 印紙額ハ訴訟ニ付キ貼用ス可キ印紙額トシテ之ヲ通算ス
 可シ(四十二年法律第十五號ヲ以テ本項追加)

第四條 再審ヲ求ルニ依リ訴狀ニハ其訴ヲ爲ス可キ裁判所ノ

審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第九條 裁判狀回復ノ申立ニハ其書面ヲ差出ス可キ裁判所ノ

審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十條 答辯書其他前數條ニ掲ケサル申立又ハ申請ニシテ

訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額三百圓以下ナル場合ニ於テハ

二十錢ノ印紙ヲ貼用シタル場合ニ於テハ二十

五錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ(四十二年法律第十五號ヲ以テ

改正)

第十一條 民事訴訟法第九十七條第一號ノ場合ノ外此法律

ニ從ヒ印紙ヲ貼用セザル民事訴訟ノ書類ハ其效ナキトシ

テス但印紙ヲ貼用セズ又ハ貼用スルモ不足ナル場合ニ於テハ裁

判所ハ相當印紙ヲ貼用セシメ之ヲ有效ナラシムルヲ得

第十二條 印紙ノ種類及ヒ貼用方ハ明治十七年第四號布達

ニ依リ

第十三條 圓印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得テ賣捌所ニ於テ發賣

シタル其他其於テ賣買スル中セテ賣買スル者ハ其價額ノ

第十四條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二十

圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現存ノ印紙ヲ沒收ス

其情ヲ知テ之ヲ買取シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金

ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス十圓以上百圓以下ノ罰金
 第十五條 前條ノ規定ヲ犯シタル者ニ刑法ノ減輕及再犯
 加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用キス
 第十六條 其非訟事件ニ關スル申立又ハ申請ニシテ請求ノ價
 額二十圓以下ナル場合ニ於テハ二十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ但
 テ超過スル場合ニ於テハ二十五錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ但
 第六條ノ三ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス(四十三年法
 律第十五號ヲ以テ改正)
 左ニ掲クル申立又ハ申請ニシテ請求ノ價額二十圓以下ナ
 ル場合ニ於テハ五十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ
 於テハ一圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ
 裁判上代位ノ申請
 競賣法ニ依ル競賣ノ申立

三 競賣法ニ依ル競賣又ハ不動産登記ニ關スル抗告
 非訟事件ニ關スル申立又ハ申請ニシテ請求ノ價額ナギモ
 ノハ其請求ノ價額二十圓以下ノモノト看做ス其並列
 第十一條及ヒ第十二條ノ規定ハ之ヲ非訟事件ニ準用ス

◎商事非訟事件印紙法

(明治二十三年八月十六日法律第六十二號)

本法ニ於テ

第一條 商法中登記ニ關ル場合ヲ除ク外非訟事件ニ付裁判
 所ノ命令其他ノ處分ヲ求ムル者ハ以下數條ノ手續ニ從ヒ
 其差出ス書類ニ民事訴訟用印紙ヲ貼用ス可シ但口述ヲ以
 テスル場合ニ於テハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ
 第五條第六條第七條ノ場合ニ於テハ管財人ヨリ差出ス計
 算書ニ印紙ヲ貼用ス可シ
 第二條 左ニ掲クルモノニ付テハ一圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ

商事非訟事件印紙法

(四十二年法律第十六號ヲ以テ本條中改正)ニシテ

第一 抗告又ハ假差押ノ申立

第二 債權者ヨリ爲ス破産宣告ノ申立根拠人トシテ提出スル情

第三 支拂猶豫ノ申立附書ニシテ提出スル情

第三條 出左ニ掲クルモノニ付テハ二十五錢ノ印紙ヲ貼用ス

可シ(同上)並ニ裁合マシムルモノハ裁合ノ手續ニ對シテ

第一 抗告ニ對スル答辯 裁合ニ對シテ裁合ノ手續ニ對シテ

第二 裁判所ノ命令其他ノ處分ノ申立ニシテ本法ニ於テ

特ニ規定セサル非訟事件ニ係ルモノ

第四條 破産手續ニ付テハ破産財團中ノ貸方金額ニ應シ左

ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ但財團管理費用其他破産

手續上ノ費用及ヒ財團ノ爲メニ負擔シタル債務並ニ別除

ノ辨濟ニ供スル金額ハ貸方金額ヨリ之ヲ扣除ス可キモノ

トス(同上)

別財團ノ價額五圓マテハ五十錢

同 十圓マテハ八十錢

同 二十圓マテハ六十錢

同 五十圓マテハ三十圓六十錢

同 七十五圓マテハ五圓

同 百圓マテハ七圓

同 二百五十圓マテハ十四圓

同 五百圓マテハ二十四圓

同 七百五十圓マテハ三十圓

同 千圓マテハ三十六圓

同 二千五百圓マテハ五十圓

同 五千圓マテハ六十圓

商事非訟事件印紙法

同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ六圓ヲ加フ

第五條 破産手續ニ付テハ財團ノ配當アル毎ニ其配當金額ノ割合ヲ以テ印紙價額ニ相當スル金額ヲ引去リ置キ終局計算ニ至リ配當金總高ノ割合ニ從ヒ相當印紙ヲ貼用ス可シ

第六條 協諾契約ニ依リ手續ヲ止メタルトキハ第四條ニ掲ケタル印紙ノ半額ヲ貼用ス可シ

第七條 破産手續再施ノ場合ニ於テハ破産手續開始ニ於ケル場合ト同一ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第八條 本法ニ定ムル印紙代價ノ負擔ニ付テハ民事訴訟法第一編第二章第五節ノ規定ヲ準用ス
民事訴訟用印紙法ハ本法ノ規定ニ牴觸セサルモノニ限り之ヲ準用ス

◎家資分散法

(明治二十三年八月二十一日) 法律第六十九號

第一條 民事訴訟法ノ強制執行處分ニ依リ義務ヲ辨濟スル資力ナキ債務者ニ對シテハ管轄裁判所ハ職權ニ依リ又ハ申立ニ依リ決定ヲ以テ家資分散者タルノ宣告ヲ爲スコ

シ
右ノ決定ハ口頭辯論ヲ要セスシテ之ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三條 第一條ノ宣告ハ裁判所及ヒ市町村ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ公告ス可シ

第四條 家資分散者ハ其宣告ヲ受ケタル日ヨリ選舉權及被

選舉權ヲ失フハ婚後ハ其宣告ヲ受テハ三日以内選舉權又對家資分散者ノ復權ニ付テハ商法第千五十五條以下ヲ準用

第五條 商法及本法施行以後ニ於テ從前ノ法律中身代限處分ヲ受ケタル者ニ對シ公權ノ喪失ヲ定メタル條項ハ破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者ニ對シ效力ヲ有ス

◎人事訴訟手續法

(明治三十一年六月二十一日法律第十號)

第一章 婚姻事件及七養子縁組事件ニ關スル手續
第十五條 婚姻ノ無效若クハ取消又ハ離婚ヲ宣渡シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達ス
第十六條 扶養若クハ同居ノ義務、子ノ監護其他ノ假處分ニ付テハ民事訴訟法第七百五十六條乃至第七百六十三條

規定ヲ準用ス
第十七條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第十八條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第十九條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第二十條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第二十一條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第二十二條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第二十三條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第二十四條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第二十五條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第二十六條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第二十七條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第二十八條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第二十九條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第三十條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第三十一條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第三十二條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第三十三條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第三十四條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第三十五條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第三十六條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第三十七條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第三十八條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第三十九條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第四十條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第四十一條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第四十二條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第四十三條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第四十四條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第四十五條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第四十六條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第四十七條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第四十八條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第四十九條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第五十條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第五十一條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第五十二條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第五十三條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第五十四條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第五十五條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第五十六條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第五十七條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第五十八條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第五十九條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第六十條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第六十一條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第六十二條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第六十三條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第六十四條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第六十五條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第六十六條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第六十七條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第六十八條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第六十九條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第七十條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第七十一條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第七十二條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第七十三條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第七十四條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第七十五條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第七十六條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第七十七條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第七十八條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第七十九條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第八十條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第八十一條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第八十二條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第八十三條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第八十四條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第八十五條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第八十六條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第八十七條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第八十八條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第八十九條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第九十條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第九十一條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第九十二條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第九十三條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第九十四條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第九十五條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第九十六條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第九十七條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第九十八條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第九十九條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫
第一百條 檢事力取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫

ノ喪失ヲ目的トスル訴及ヒ隱居ノ取消ノ訴ニ之ヲ準用ス
 第三條第三項乃至第五項ノ規定ハ第三十條第二項、第三項、第三十四條及ヒ第三十六條ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第三章禁治産及ヒ準禁治産ニ關スル手續
 第五十條 禁治産ノ申立ヲ却下シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人及ヒ檢事ニ送達ス
 禁治産ヲ宣告シタル決定ハ職權ヲ以テ申立人、檢事及ヒ禁治産者ノ法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ル者キ禁治産者ニ之ヲ送達ス
 第五十九條 第二條第四項、第五項、第三條、第五條、第十條、第十一條、第十七條、第四十七條及ヒ第四十八條ノ規定ハ第五十五條第一項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第六十二條 禁治産ノ宣告ヲ取消シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達ス
 前項ノ判決カ確定シタルトキ第一審ノ受訴裁判所附之禁治産者ニ之ヲ送達ス
 第六十五條 禁治産ノ取消ノ申立ヲ却下シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人ニ送達ス
 禁治産ヲ取消シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人、檢事及ヒ禁治産者ニ送達ス
 第六十二條第二項ノ規定ハ此決定ニ之ヲ準用ス
 檢事ハ前項ノ決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス
 第六十六條 禁治産ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ル者ハ其申立ヲ却下シタル決定ニ對シテ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコト

立得時... 第五十六條乃至第六十條、第六十一條第一項及第七十條第二條の規定は前項の訴ニ之ヲ準用ス

第七十條之失踪ノ宣告及ヒ其宣告ノ取消ニハ以下數條ニ定メタルモノニ外民事訴訟法第七百六十五條乃至第七百七十五條ノ規定ヲ準用ス

◎非訟事件手續法 (明治三十一年六月二十一日) 法律第十四號

第十七條 裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

裁判ノ原本ニ捺印スヘシ但申立書及調査書ニ裁判書記載シ判事之ニ署名、捺印シテ原本ニ代フルコトヲ得

裁判ノ正本及謄本ニ書記署名、捺印シ且正本ニ裁判所ノ印ヲ捺捺スヘシ

第十八條 裁判ハ之ヲ受クル者ニ告知スルニ依リテ其效力ヲ生ズ

裁判ノ告知ハ裁判所ノ相當ト認ムル方法ニ依リテ之ヲ爲ス

告知ノ方法、場所及年月日ハ之ヲ裁判ノ原本ニ記入ス

第二十六條 裁判前ノ手續及ヒ裁判ノ告知ノ費用ハ特ニ其負擔者ヲ定メタル場合ヲ除ク外事件ノ申立人ノ負擔トス

但檢事カ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第三十一條 費用ノ債權者ハ費用ノ裁判ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得

第一百五條 裁判所ハ遺言書ノ開封及ヒ檢認ヲ爲シタルトキハ出頭セザリシ相續人其他遺言ノ旨趣ニ關係アル者ニ其旨ヲ告知スヘシ六百六十一條又ハ第六百六十四條ノ規定ニ據テ前項ニ掲ケタル者ハ裁判所ノ許可ヲ得テ前條ノ調書ヲ閱覽スルコトヲ得

第三編 商事非訟事件

第三章 商業登記

第一節 通則

第一百五十一條 登記所ハ登記ノ申請カ商法又ハ本章ノ規定ニ適セザルトキハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得 又此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得 前項ノ決定ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ申請人ニ送達スルコトヲ要ス

附則 則ニ依リテハ民事訴訟法ノ規定ニ據テ之ヲ送達スルコトヲ要ス

第二百七條 過料ノ裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前當事者ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ

當事者及ヒ檢事ハ過料ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

手續ノ費用ハ過料ニ處スル言渡アリタル場合ニ於テハ其言渡ヲ受ケタル者ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

抗告裁判所カ當事者ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタルトキハ抗告手續ノ費用及ヒ前審ニ於テ當事者ハ負擔スルコトヲ要ス

抗告手續ノ費用ハ國庫ノ負擔トス(同上)

非訟事件手續法

六三九

非訟事件手續法

六三九

非訟事件手續法

第二百八條、過料ノ裁判ハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス過料ノ裁判ノ執行ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但執行ヲ爲ス前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

◎競賣法

(明治三十一年六月二十一日)

法律第十五號

第一章 通則

第一條 競買ノ申込ハ他ノ高價競買ノ申込ヲ其タルトキ又ハ競落ヲ爲サスシテ競賣ヲ終了シタルトキハ當然其效力ヲ失フ
第二條 競賣人ハ競落ニ依リテ競賣ノ目的タル權利ヲ取得ス
競賣ノ目的ノ上ニ存スル先取特權及ヒ抵當權ハ競落ニ因

及テ消滅ス
競買人ハ留置權者、競賣人ニ對シテ優先權ヲ有スル質權者及ヒ其質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル債權者ニ辨濟スルニ非サレハ競賣ノ目的物ヲ受取ルコトヲ得ス

第二章 動産ノ競賣
第三條 動産ノ競賣ハ留置權者、先取特權者、質權者其他民法又ハ商法ノ規定ニ依リテ其競賣ヲ爲サントスル者ヲ委任ニ依リ競賣ヲ爲ス地ノ區裁判所所屬ノ執達吏之ヲ爲ス

前項ノ委任ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス
第四條 競賣ノ委任ヲ受ケタル執達吏ハ其競買人ト爲ルコトヲ得ス
債權者ハ委任ニ依リテ競賣ヲ爲ス場合ニ於テハ債務者ニ

現金ヲ以テ代價ヲ提供スルニ非サレハ其競買人申込ヲ爲
スコトヲ得ス

第五條 競賣ハ競賣ニ付スヘキ物ノ現在地ニ於テ之ヲ爲ス
但其地ニ於テ相當ノ代價ヲ得ル見込ナキトキハ他所ニ於
テ之ヲ爲スコトヲ得

第六條 競賣ノ日時ハ執達吏ハ其委任ヲ受ケタル所直チ
ニ之ヲ定ムルコトヲ要ス但直チニ之ヲ定ムルコト能ハサ
ズハ事情アルトキハ此限ニ在ラス夫如キ時ハ其委任者
第七條 競賣ノ場所及ヒ日時ハ豫メ之ヲ公告スルコトヲ要
スニ非ズ

公告ハ競賣ニ付スヘキ物ノ品質及ヒ價格ニ準シ競賣地ニ
於ケル適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ夫如キ時ハ其委任
公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 競賣委任者ノ氏名、住所、買入申込人ニ付テ競賣ノ
第十二條 競賣ニ付スヘキ物ノ種類、數量及ヒ品質、競買人申
込ニ付テ競賣ノ條件ヲ定メタルトキハ其條件

一三 競賣ノ場所及ヒ年月日時、競買人申込ノ
第十四條 競賣ノ場所及ヒ年月日時、競買人申込ノ
第十五條 競賣ノ委任ヲ受ケタル執達吏ノ氏名、住所、申
込ニ付テ競賣ノ條件ヲ定メザリシトキハ民事訴訟法第五
百七十七條第三項ノ規定ヲ準用ス

第十八條 競賣ノ場所及ヒ日時ハ競賣ニ付キ利害ノ關係ヲ有
スル者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス但通知ヲ受ケ
ズキ者ハ住所又ハ居所カ知レザルトキハ此限ニ在ラス

第十九條 公告ト競賣トノ間ニハ五日以上ノ期間ヲ存スルコ
トヲ要ス但競賣ニ付スヘキ物ニ關シ之ヨリ速ニ競賣ヲ爲
スコトヲ要スル特別ノ事情アルトキハ此限ニ在ラス

競賣法

六四三

第十條 高價品の競賣ハ鑑定人ヲシテ其評價ヲ爲サシメタル後之ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條 金銀及ヒ金銀ノ製品ハ地金銀ノ相場以下ノ代價ヲ以テ之ヲ競賣スルコトヲ得

第十二條 前條ニ掲ケタル物ヲ競賣スル場合ニ於テ競賣ノ日ニ相當ナル競賣ノ申込ナキトキハ執達吏ハ金銀及ヒ金銀ノ製品ニ付テハ地金銀ノ相場以上ノ代價、取引所ノ相場アル物ニ付テハ競賣ノ日ノ相場以上ノ代價ヲ以テ任意ニ之ヲ賣却スルコトヲ得

第十三條 競賣ハ其條件ヲ告知シ各競賣物ニ付テ競買ノ申込ヲ催告スルニ始マリ最高價競買ノ申込人ニ對シ競落ノ

告知ヲ爲スニ依リテ終了ス

第十四條 要執達吏ハ競賣調書ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シ署名捺印ス

一 競賣委任者ノ氏名、住所

二 競賣ノ種類、數量及ヒ品質

三 鑑定人ヲシテ評價ヲ爲サシメタル日

四 競賣ノ場所及ヒ日時

五 第九條但書ノ事由アリタルトキハ其事由

六 利害ノ關係ヲ有スル者ニ通知ヲ發シタルコト若シ

七 告知シタル競賣ノ條件人ハ其申立

第十八 各競賣物ニ對スル競落人ノ氏名及ヒ其申込價額

九ノ競賣ヲ停止シタルトキ又ハ競落ヲ爲ササリシトキ

十六ハ其事由關シテ其日時イキハ其事由

十七 競賣ノ開始及ヒ完結ノ日時イキハ其事由

十一 競賣調書又作リタル場所及ヒ年月日

競賣調書ニ委任者又ハ其代理人ヲシテ署名ハ捺印

メ且競賣ノ公告ヲ爲シ及ヒ通知ヲ發シタル品ヲ證スル

書面及ヒ委任狀ヲ添附スルヨリ要ス

執達吏ハ委任者ト請求ニ依リ競賣調書ノ謄本ヲ交付スル

第十五條 執達吏ハ競賣ノ完結後賣得金ノ中ヨリ競賣ノ費

用ヲ控除シ其殘金及ヒ競落セザリシ物ヲ遲滞ナク之ヲ受

取ルベキ者ニ交付シ又ハ其者ノ爲メニ之ヲ供託スルコト

ヲ要ス

第十六條 執達吏ハ競賣ニ付キ正副ニ通シ計算書ヲ作シ其

正本ヲ計算ニ關スル證明書ト共ニ之ヲ委任者ニ交付シ其

副本ハ之ヲ競賣調書ニ添附ス

第十七條 競賣ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ハ競賣ノ完結

後三至ルマテ其手續ニ關スル執達吏ノ處分ニ付キ其所屬區

裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ハ裁判所申立人ニ之ヲ通知ス

不服ヲ申立タルモノト得ヌ

異議ハ裁判所ハ之ヲ以テ善意ノ競落人ニ對抗スルコトヲ得

第十八條 前條ノ規定ニ依リテ異議ノ申立アリタルトキハ

裁判所ハ競賣ノ停止ヲ命スルコトヲ得但停止ニ依リテ著

茲將損害又生スル虞アルトキハ此限ニ在ラズニ内ニモ
 第十九條 第三者カ競賣ノ目的物ニ關シテ訴ヲ提起シタル
 コトヲ證明シタルトキハ執達吏ハ其競賣ヲ停止スルコト
 必要ニ認民ハ之ヲ以テ善意ノ競買人ニ提訴スルハロイモ併
 物ヲ保管ニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキ又ハ遲滞ノ爲メ
 著シク物ノ價格ヲ減少スル虞アルトキハ執達吏ハ競賣ヲ
 續行シテ賣得金ヲ供託スルコトヲ得
 第三十條 前二條ニ規定ニ依リテ競賣ヲ停止シタル場合ニ
 於テ執達吏ハ相當ノ方法ヲ以テ競賣ノ目的物ヲ保管ス
 ルコトヲ要ス此場合ニ於ケル競賣手續及ヒ保管ノ費用ハ
 委任者ノ負擔トス
 第三十條 競賣ノ委任ハ競落ノ告知アル後之ヲ取消ス
 コトヲ得

前項ニ場合ニ於ケル競賣手續ノ費用ハ委任者ノ負擔トス
 第三章 不動産ノ競賣
 第二十二條 不動産ノ競賣ハ留置權者、先取特權者、質權
 者、抵當權者其他民法ノ規定ニ依リテ競賣ヲ爲セントス
 者ハ申立ニ依リテ不動産所在地ノ區裁判所之ヲ爲ス
 民事訴訟法第六百四十一條第一項ノ規定ハ競賣ヲ爲スヘ
 キ裁判所ノ管轄ニ之ヲ準用ス
 第二十三條 申立人ハ競落期日ヲ定メ最高價競買申込人ト
 同意アル場合ニ限リ其申立ノ取下ヲ爲スコトヲ得
 第二十四條 競賣ノ申立ハ書面ヲ提出シテ之ヲ爲スコトヲ
 要ス
 申立書ニ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其代理人之ニ署
 名、捺印スルコトヲ得

第一 債務者及ヒ所有者ノ氏名、住所
 中立書競賣ニ付キ不動産ノ表示ハ其ノ取入ニ署
 要三 競賣ノ原因タル事由
 第三四四年月日賣入中立ハ書面ニ註出シテ之ヲ爲スルコト
 第五 裁判所ニ願ハ其申立ノ期日及價額ノ爲メ
 申立書ニハ競賣ニ付スル不動産ニ關スル登記簿及謄本
 及代理人ニ依リテ申立候爲ストキハ其委任狀ヲ添附ス
 民事訴訟法第六百四十三條第一項第二號乃至第五號、第
 五項及七第三項ノ規定ハ第一項ノ申立書之ヲ準用ス
 第二十五條 競賣手續ノ開始ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス
 開始決定ニハ申立人ノ氏名、住所及ヒ前條第二項第一號
 乃至第四號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ決定ヲ爲シ以テ判事

業之キ署名捺印スヘシ開始決定ハ競賣期書又ハ競賣期日ノ書
 民事訴訟法第二百三十九條ノ規定ハ開始決定ニ之ヲ準用
 第三十六條 裁判所ハ開始決定ヲ爲スト同時ニ職權ヲ以テ
 競賣申立又ハ決定ノ下ニ競賣手續ニ付スル不動産ニ關シ
 登記簿及登記ノ旨ヲ其管轄登記所ニ囑託スルコト
 民事訴訟法第六百五十二條第三項ニ第六百五十二條及第
 第六百五十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第二十七條 裁判所ハ開始決定ヲ爲シタルトキハ競賣期日
 及因競落期日ヲ定メ之ヲ公告スルコトヲ要ス
 競賣ノ期日及競賣手續ノ利害關係人ニ之ヲ通知スルコト
 ヲ要ス
 左ニ記載シタル者ヲ利害關係人トス

式一請申立人ハ答ハ味書關附八ノ所
 又二債務者及ヒ所有者
 又三登記簿ニ登記シタル不動産上ノ權利者
 又四競不動産上ノ權利者トシテ其權利ヲ證明シタル者
 第二十八條 裁判所ハ鑑定人ヲシテ競賣ニ付スヘキ不動産
 其評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額トスヘシ
 第二十九條 競賣期日ヲ公告スルニ第二十二條三掲ケタル者
 又申立書依テ競賣ヲ爲ス旨外民事訴訟法第六百五十
 二條第五號乃至第七號、第九號及同第
 三十一條ニ掲ケタル事項記載スルニ要スルニ解シテ以テ
 民事訴訟法第六百六十一條ノ規定ハ前項ノ公告ニ之ヲ準
 用スルニ依リテ之ヲ行フ
 第三十條 競賣期日、其開始、競賣調書及ヒ競賣終局ノ告

知ニ關スル民事訴訟法第六百五十九條第六百六十二條乃
 至第六百六十九條ノ規定ハ本章ノ競賣ニ之ヲ準用ス
 第三十條 競賣期日ニ相當ノ競買申込ヲキテ裁判所
 競賣期日權定メテ競賣ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ民事
 訴訟法第六百七十條ノ規定ヲ準用ス
 第三十一條 競賣期日ハ民事訴訟法第六百六十條ノ規定ニ
 從ヒ裁判所ニ於テ之ヲ開クヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟
 法第六百六十條ノ規定ヲ準用ス
 第三十二條 競賣期日立競賣ノ
 履行及ヒ競落人ノ義務不履行ノ場合ニ於ケル再競賣ニ關
 スル民事訴訟法第六百七十一條乃至第六百七十四條、第
 六百七十六條乃至第六百八十三條、第六百八十七條及ヒ
 第六百八十八條ノ規定ハ本章ノ競賣ニ之ヲ準用ス
 第三十三條 競落人ハ競落ヲ許ス決定力確定シタル後直ニ

第三代價ヲ裁判所ニ支拂フコトヲ要ス此場合ニ於テ裁判所ニ其裁判ノ謄本ヲ添ヘ競落人カ取得シタル權利ノ移轉ノ登記ヲ管轄登記所ニ囑託スヘシ此場合ニ於テ裁判所前項ノ代價ノ中ヨリ競賣ノ費用ヲ控除シ其殘金裁判所前項ノ代價ノ中ヨリ競賣ノ費用ヲ控除シ其殘金ニ遲滞ナク之ヲ受取ルヘキ者ニ交付スルコトヲ要ス

第三十四條 裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ爲ス前申立ニ依リ競賣ヲ代テ入札拂フ爲スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第七百三條乃至第七百五條ノ規定ニ依ル外本章ノ規定ヲ準用ス

第三十五條 日競落ヲ爲スルニ依リ競賣手續ヲ完結セタルトキ裁判所ハ第二章第六條ノ規定ニ依リ之ヲ爲シタル登記ノ抹消ヲ囑託ス

第四章 船舶ノ競賣

第三十六條 三登記シタル船舶ノ競賣申立ニ因リ其當時ノ碇泊港又ハ船舶ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所之ヲ爲ス

第三十七條 競賣ノ申立書ハ船舶所有者並ニ船長ノ氏名住所、船舶ノ表示及ヒ競賣ノ原因ヲ記載シ且船舶登記簿ノ謄本及ヒ官ノ認可ヲ要スル場合ニ於テハ其認可ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第三十八條 競賣期日ノ公告ニハ申立ニ依リテ競賣ヲ爲ス旨ノ外船舶ノ表示及ヒ其碇泊港又ハ現在ノ場所ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十九條 前章ノ規定及ヒ民事訴訟法第七百十九條、第七百二十條第二項、第七百二十三條、第七百二十五條ノ規定ハ船舶ノ競賣ニ之ヲ準用ス

第四十條 第五章ノ增價競賣十四條ノ規定ニ依リテ準用ス

第四十條 正民法第三百八十四條ノ規定ニ依リテ抵當不動産
 以増價競賣ヲ請求スル債權者ハ第三取得者ニ競賣ノ請求
 ヲ送達シタル日ヨリ三日内ニ抵當不動産所在地ノ區裁
 判所ニ競賣ノ申立ヲ爲シ且擔保ヲ認許ヲ求ムル由トヲ要
 ス
 前項ノ規定ニ依ラサル競賣ノ請求ハ無効トス
 第四十一條 競賣ノ申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ請求債權
 者之ニ署名、捺印スルハ必要ナリ
 一 本債務者ノ氏名、住所
 二 抵當不動産ノ表示
 三 第三取得者及ヒ讓渡人ノ氏名、住所
 四 擔保ノ表示
 五 認許ヲ求ムル金額申立ニ因リ其當額ノ

式六請請求者カ定メタル増價金額
 賣七ノ年月日
 第四十二條 裁判所ニ於テ競賣ノ請求ハ其債權者ノ
 申立書ニハ民法第三百八十三條ノ送達ヲ受ケタル日ヲ證
 明シ書面ヲ添附スルハ必要ナリ
 民事訴訟法第六百四十三條第一項第三號乃至第五號、第
 三項及ヒ第三項ノ規定ハ本條ノ申立ニ之ヲ準用ス
 第四十三條 裁判所ハ擔保ノ許否ニ付キ期日ヲ定メ決定ヲ
 以テ其裁判ヲ爲スヘシ
 期日ニ於テ請求債權者及ヒ第三取得者ヲ呼出タスルハ
 擔保ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツル由トヲ得ス
 第四十三條 競賣ノ請求ハ擔保ヲ認許セサル裁判ニ依リテ
 當然其效力ヲ失フ

民法第百八十四條ニ定メタル期間内ニ第三取得者ニ對
 策以テ競賣ノ請求書ヲ送達シテ他ノ債權者ハ前項ノ裁判
 力ヲ及ビ得ヨク三日内ニ第四十條ノ申立ヲ爲スエトヲ得
 第四十四條裁判所ニ擔保ヲ認許シテ其ノ申立ハ競賣手續ノ
 開始ヲ決定ヲ爲スヘシ
 策決定ニ對認許シタル擔保又表示シ且第四十七條第六項第
 二號乃至第三號、第六號及第七號ニ掲ケタル事項ヲ記
 載スル紙ヲ第六百四十三號第一頁第三號乃至第五號ノ策
 第二十五條第二項、第三項及ヒ第二十六條第一項ノ規定
 以本條ノ決定ニ之ヲ準用ス三割ノ利息ヲ受メタル日ニ競
 第四十五條第二十七條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ増價競
 賣ノ之ヲ準用ス
 左ニ記載シタル者ヲ利害關係人トス

策正半競賣請求者ノ限日ハ該合ノ以テ之ヲ定ム(三十一)

第五二 債務者ノ限日ハ該合ノ以テ之ヲ定ム(三十一)

新五至第三取得者及讓渡人ハ其本章ノ限日ニ準用ス

ニ四ノ登記簿ニ登記シタル不動産上ノ權利者ニ對シテ百三

策四五ノ不動産上ノ權利者ニ對シテ其權利ヲ證明スル者ハ

第四十六條ノ競賣ノ公告ニハ増價競賣ノ申立ニ依リテ競賣

策四爲ノ旨及ヒ請求者ノ定メタル増價金額ハ外民事訴訟法

第百五十八條第三號乃至第三號、第五號、第七號、第九

號及百五十九條ノ掲ケタル事項ヲ記載スルヘシ(三十一)

第三十三條及ヒ民事訴訟法第六百五十九條乃至第六百六

十九條、第六百七十一條乃至第六百七十四條、第六百七

十六條乃至第六百八十三條、第六百八十七條ノ規定ハ本

策單ニ競賣及ヒ競落ノ手續ニ之ヲ準用ス(三十一)

第四十七條 競賣期日ニ請求債權者カ定メタル増價金額ニ達スル競買ノ申込ナキトキハ請求債權者ヲ以テ競落人トシテ其額ノ六十分ノ一ヲ至額六百分ノ一ニ至額六百分ノ一ノ間ニ定メテ之ヲ公告スルコトヲ要ス

第四十八條 増價競賣ノ擔保ハ競落代價ノ完済ニ依リテ其效力ヲ失フ

第四十九條 裁判所ハ競賣請求者ノ申立ニ依リ競賣ニ代ヘテ入札拂ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第七百三條乃至第七百五條ノ規定ニ依ル外本章ノ規定ヲ準用ス

附則

第五十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (三十一)

年勅令第二百二十三號ヲ以テ同年七月十六日ヨリ施行ス

第五十一條 明治二十三年法律第九十二號増價競賣法ハ本法發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

一 競賣法ニ依ル競賣ノ手續ハ申立人カ死亡シタルトキト雖モ之ヲ續行スヘキ

一 先取特權者ハ質權者又ハ留置權者ノ如ク常ニ先取特權ノ存スル動産ヲ占有スル者ニ非サルモ之ヲ占有スル場合例ヘハ旅客カ手荷物ヲ旅人ノ主人ニ寄託シタル場合又ハ運送人カ荷物ヲ占有スル場合ニ於テ其競賣ヲ執達吏ニ委任シタルトキハ執達吏ハ直ニ競賣手續ニ着手スルコトヲ得ヘシ競賣法ニ依リ先取特權者カ競賣ノ委任ヲ爲シ執達吏カ競賣ヲ爲スコトハ右等ノ場合ニ於テノミ其適用ヲ見ルヘキモノトス (一六一號決議)

一 競賣ノ手續ニ關スル執達吏ノ處分ニ付テハ競賣ノ完結ニ至ルマテニ所屬區裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スノ外競賣完結後之ヲ攻撃スルコトヲ得ス (一

八四號判例

- 一 競賣法及七民事訴訟法ニ於ケル不動産競落人ノ從物ノ所有權ヲ取得スルモ
- ノトス(一八八號決議)
- 一 競賣法ニ依リ競賣事件ニ於テハ執達吏ハ競賣記録ヲ各人ノ閱覽ニ供スヘキ
- モトス(一九二號決議)
- 一 競賣シタル不動産ノ競落代金ハ裁判所ニ於テ先ツ優先權ヲ有スル不動産上
- ノ權利者ニ交付シ殘餘アラハ競賣申立人ニ交付ス。全ク普通債權者ニ交付ス
- ヘキモノニアラス(二二六號決議)
- 一 競賣法第三十二條第一項ノ抵當權者トハ其權利ヲ登記シタル抵當權者ヲ意
- 味スルモトス(二二四號決議)
- 一 増價競賣期日ニ請求權者力定メタル増價金額以上ノ競賣申込ヲ爲シタル
- 者ニ對シ競落ヲ許可シ其決定確定シタルモ競落人カ代金ノ支拂ヲ爲ササル
- 場合ニハ再競賣ヲ命スヘキモトス(二二八號回答)
- 一 本法ニ依リ競賣ハ競落代金ニ付キ交付ヲ受クル權利ヲ有スル利害關係人ア
- ル場合ニ在リテハ其申立人ノミテ申請ニ因リ競賣裁判所之ヲ停止スルコト
- ヲ得ズ(二四一號決議)

一右競賣ノ其競賣ヲ停止スル旨ノ假處分命令ニ因リ競賣裁判所之ヲ停止スル

コトヲ要ス(同上)

一怠納處分ニ因リ差押ヘラレタル不動産ニ對シテハ抵當權者ノ競賣ノ申立ヲ

爲スコトヲ得ス(二五四號決議)

◎印紙税法 (明治三十一年三月九日 法律第五十四號)

第一條 高財產權ノ創設、移轉、變更若ハ消滅ノ證明スヘキ證
書、帳簿及財產權ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證
書ヲ作成スル者ハ此ノ法律ニ依リ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要ス

第二條 證書ニ關シテハ普通毎ニ其額記載金高五圓以上ノ
者ノ限リ記載金高其百分ノ五又割合ヲ以テ印紙稅ヲ納
ムルコトヲ要ス但シ印紙稅額五十圓ヲ超スルコトヲ許シ五十圓ニ止ルコト
ニ關シテハ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキハ一錢ニ

印紙稅法

切未納ルモノトス一發未納ハ嚴懲マセハ一發ニ
 金高記載ナリモ證書面ニ標記シアル價額ノ單位又ハ其ノ
 他ノ記載事項ニ依リ其ノ金高ヲ算出スルハト得ルモ
 第三條其ノ總金額ヲ以テ記載金高ヲ看做ス總金額正圓以上ハ
 第三條并約束手形ニ關シテ右ノ通毎ニ其ノ記載金高ニ應シ
 左ノ印紙稅ヲ納ムヘシ
 第一 金高五百圓以下ノモノ 印紙稅 三錢
 第二 金高千圓以下ノモノ 印紙稅 五錢
 第三 金高五千圓以下ノモノ 印紙稅 十錢
 第四 金高一萬圓以下ノモノ 印紙稅 二十錢
 第五 金高二萬圓以下ノモノ 印紙稅 五十錢
 第六 金高三萬圓以下ノモノ 印紙稅 一圓
 第七 金高五萬圓以下ノモノ 印紙稅 二圓

金高十萬圓以下ノモノ 印紙稅 四圓
 金高十萬圓ヲ超ユルモノ 印紙稅 七圓

第四條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ
 帳簿ハ冊子一年以内ノ附込ニ對シテ定ムル所ノ印紙稅

- 一 委任狀 變更ニ關スル證書 印紙稅 二錢
- 一 爲替手形 合算證書 印紙稅 三錢
- 一 銀行預金證書 印紙稅 三錢
- 一 船荷證券 印紙稅 三錢
- 一 運送貨物引換證券 印紙稅 三錢
- 一 倉荷預證券 印紙稅 三錢
- 一 倉荷質入證券 印紙稅 三錢
- 一 保險證券 印紙稅 三錢

- 一 株券 印紙税 三 錢
- 二 積券 印紙税 三 錢
- 三 株式申込書 印紙税 三 錢
- 四 地主権、永年作權地役權ニ關スル證書 印紙税 三 錢
- 五 使用貸借、賃貸借、雇傭、寄託、定期金ニ關スル契約書 印紙税 三 錢
- 六 一定款及組合契約書 印紙税 三 錢
- 七 權利移變更ニ關スル證書 印紙税 三 錢
- 八 追認、承認ニ關スル證書 印紙税 三 錢
- 九 贈與物品切手券以内ノ贈與ニ關スル證書 印紙税 三 錢
- 十 四對賣買仕切書、贈與、贈與ニ關スル證書 印紙税 三 錢
- 十一 送狀 印紙税 三 錢
- 十二 受取書 印紙税 三 錢

- 一 登高記載ノ證書 印紙税 三 錢
- 二 擔保品差入證書、擔保品預證書 印紙税 三 錢
- 三 通帳 印紙税 三 錢
- 四 判取帳 印紙税 二十五 錢

第五條 金庫、金帳簿、金帳簿ニ關シテハ、印紙税ヲ納メ、
 コト要書スルモノハ、印紙税ヲ納メ、
 第七一官廳又ハ公署ヨリ發シテ、帳簿營業ニ關シテハ、
 一官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書、
 第八一帳簿正副未滿者ハ、登高記載ノモノハ、
 一國庫金取扱ニ關シテハ、
 第九一慈善及國公共事業ヲ爲スルモノハ、
 一人民ヨリ官廳若ハ公署ニ提出スル證書、
 一俸給、給料、歳費、手當金、賞與金、年金、恩給金、扶助

- 一 料、旅費及救恤金ヲ受取書買典金、手金、恩給金ニ付
 - 一 小切手、官廳若ハ公署ニ提出スル者
 - 一 金高五圓未満者爲替手形、約束手形、清算ニ關シ
 - 一 金高五圓未満ノ物品切手
 - 一 金高五圓未満若ハ金高記載ナキ又ハ運送契約ニ依ラ
 - 一 寄附送状公署ニ郵送スル者
 - 一 金高五圓未満若ハ金高記載ナキ又ハ營業ニ關セサル
 - 一 受取書
- 正計金高五圓未満若ハ金高記載ナキ又ハ非營業者ハ發ス
- 一 賣買仕切書
 - 一 主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約
 - 一 證券ノ裏書及手形ノ裏面ニ記載シタル受取書
 - 一 株券、債券ノ讓渡ヲ證明スヘキ裏面記載

- 一 手形及證券ノ拒絕證書
- 一 再一手形及證券ノ複本、謄本
- 第六條 印紙税ハ證書、帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納メルモノ
トス但シ印紙税額ニ相當スル現金ヲ政府ニ納付シテ税印
紙ヲ押捺ラ受ク印紙貼用ニ代フモノト得テ正税以テハ株
第七條 一冊ノ帳簿ヲ一年以上使用スルトキハ別帳簿ヲ調
製シタルモノト看做スルモノトス
- 第八條 證書、外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ内國
貨幣ニ換算シタル金高ニ相當スル印紙ヲ貼用スルモノトス
- 第九條 印紙ヲ貼用スルトキハ證書又ハ帳簿ノ紙面ト印紙
ノ彩紋トニカケテ證書又ハ帳簿作成者ノ印章又ハ署名ヲ
捺シテ判明ニ之ヲ消スヘシ

第三條 金庫ハ金錢ヲ供託ヲ受ケタル翌月ニ親拂渡請求ノ前月マテ大藏大臣カ定メタル利息ヲ拂フコトヲ要ス

第四條 金庫ハ供託物ヲ受取ルニキ者ノ請求ニ因リ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金、利息又ハ配當金ヲ受取り供託物ニ代ヘ又ハ其從トシテ之ヲ保管ス但保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ供託者ハ其利息又ハ配當金ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第五條 司法大臣ハ法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢又ハ有價證券ニ非サル物品ヲ保管スルニキ倉庫營業者ヲ指定スルコトヲ得

倉庫營業者ハ其營業ノ部類ニ屬スル物ニシテ其保管シ得ルニキ數量ニ限リ之ヲ保管スル義務ヲ負フ

第六條 倉庫營業者ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ司法大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作り供託物ニ添ヘテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第七條 倉庫營業者ハ供託物ヲ受取ルニキ者ニ對シ一般ニ同種ノ物ニ付テ請求スル保管料ヲ請求スルコトヲ得

第八條 供託物ハ供託者カ指定シタル者又ハ法令若シテ裁判ニ依リテ定メタル者ニ之ヲ還付スルコトヲ要ス

第九條 民法第四百九十六條ノ規定ニ依リテ供託業カ錯誤ニ出テシヨリ又ハ其原因ヲ消滅シタルニ由リ證明スルニ非サレバ供託物ヲ取戻スコトヲ得ス

第十條 供託者カ供託物ヲ受取ル權利ヲ有セサル者ヲ指定シタルトキハ其供託ハ無効トス

第十一條 供託者カ反對給付ヲ爲スルニキ場合ニ

業於利供託所ニ其給付ヲ爲シ又供託者ノ書面若クハ裁
判ニ依リ其給付ノ期タルニ證明スルニ非サレハ供託
物ヲ受取ルコトヲ得ズ受取ルハ附随ノ物ニ限リテ之
ニ限リテ之ヲ得ル

第十條 本法ハ明治三十一年四月廿日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 本法施行前ニ供託シタル金銀ハ其施行ノ月ヨ

リ拂渡請求ス前月々第三條ノ利息ヲ附スルコトヲ要ス

第十三條 第四條第八條及第十條ニ規定ス本法施行前

ニ供託シタル物ニ本亦之ヲ適用ス

第十四條 明治三十三年勅令第四百四十五號供託規則ハ本法
施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

◎供託物取扱規程 (明治三十三年三月十六日) 大藏省令第六號

第一條 明治三十三年法律第十五號供託法ニ從ヒ金庫ニ於
テ保管スル供託物ハ此ノ規程ニ依テ取扱フモノトス

第二條 其此有規程ニ於テ供託物ト稱スルハ法律命令中供託
ノ明記ヲ有シタル場合ニ於テ保管スルモノニキ金銀、有價證券
ヲ謂フ

第三條 供託ノ爲メニハ左ノ事項ヲ明示シタル第
一號書式ノ供託書ニ通リ作リ之ヲ供託物ニ添ヘ金庫ヘ提
出ス

第五條 供託者ノ住所氏名官吏公處及公務上取扱者場合ハ
其ノ官廳名官氏名又ハ職氏名但シ代人ヲ用ユルトキハ

第二條 供託セシメタル金額
有價證券ハ其ノ種類記號番號券面額枚數但シ全額拂

込未済金モ入ハ券面額ノ左側ニ其ハ拂込済額ヲ記ス

第三ノ供託ノ原因(事實ヲ詳記スルノ外利害關係人ノ法律上ノ位置及氏名)

第四ノ供託スルモノ及法令ノ條項

第五 供託物ヲ受取ル者ノ指定スル場合及其人

出ス者ノ法律上ノ位置(質權者、抵當權者等特ニ其名稱ヲ記スルコト要ス)及氏名住所

第六 供託物ヲ受取ル可キ者ヨリ反對給付ノ目的物

第七 官廳ニ對スル保證文ハ擔保トシテ供託スル場合

第八 其ノ官廳名若シ訴訟關スルトキハ其ノ件名及裁判

所名

第四條 金庫ニ於テ前條ノ供託ヲ受外金庫ト對シテ之ヲ調査

其ノ要件ヲ具備シタルコトヲ認メタル後供託書ヲ一通

第五條 當供託物ニ郵便ニ依リ寄託スルコトヲ得但シ供託物

形若シ郵便爲替券等ヲ以テ供託書ト共ニ金庫ニ送付ス

第六條 金庫ニ於テ前條ニ依リ送金手形若シハ爲替券等ノ

送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ現金ニ交換シタル後第四條ニ

第七條 供託物ヲ受取ル者ニ於テ供託ノ目的タル有價

證券ノ償還金利息又ハ配當金ヲ受取方ヲ請求セシムル

水キハ第三號書式ヲ請求書ニ通シテ作シテ金庫ニ提出ス

保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル者ニ於テ前項ノ請求ニ依リ金庫ニ保管セラルルタリ其ノ利息又ハ配當金ヲ受取ルノ時ハ其ノ第八條ノ附屬供託物受領證ニ式ノ如ク領收ノ與書ヲ爲シ其ノ拂渡ヲ金庫ニ請求スルハ其ノ旨ヨリ保證金ニ代ヘテ利札付有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テ本條第三項ノ手續ニ依ラズ直チニ其ノ利札ヲ受取ルコトヲ得但シ此場合ハ第三號書式ノ領收證書ヲ作付利札ノ交付ヲ金庫ニ請求スヘシ

第八條金庫ニ於テ前條第三項ノ請求ヲ受ケタリキ其ノ償還金利息又ハ配當金ヲ受取ル領還金ニ代供託物利息又ハ配當金ハ附屬供託物トシテ之ヲ保管シ請求書ノ一通ニ式ノ如ク受領證ヲ請求者ニ交付スヘシ

前條第三項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ附屬供託物ヲ交

付第三項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ利札ヲ交付スヘシ

第九條 供託法第八條ニ規定スル供託者ヲ指定シタル者又ハ法令若クハ裁判ニ依リテ定マリタル者ニ於テ供託物ノ全部又ハ幾分ノ拂渡ヲ受ケタルトキハ第四號書式ノ請求書ヲ作付第四條及第八條第一項ノ受領證ヲ添ヘ其ノ請求ノ理由ヲ證スルキ左ノ書類ト共ニ金庫金提出ス可シ但シ全部ノ拂渡ヲ要スルトキハ其ノ受領證ニ式ノ如ク與書ヲ爲シ幾分ノ拂渡ヲ要スルトキハ第五號書式ノ領收證書ヲ提出スルニ依リテ要スルハ金庫ニ提出スルニ依リテ

第二項 供託者カ指定シタル者ハ其ノ供託通知書ヲ添ヘ

第二項 法令ニ依リテ定マリタル者ハ其ノ受取ルヘキ事由

第三項 證スルニ足ル書類ト共ニ答ハ附付シタル件先ノ五

第三 裁判ニ依リテ定マリタル者ハ執行力アル判決ノ正
 本又ハ裁判所ノ命令書
 前項ノ拂渡ヲ請求スル者カ反對給付ヲ爲ス者ナ
 ル書ヲ提出シ其ノ給付ヲ爲シタル金銭、證券若クハ物件ノ數
 書量等ヲ表示シ其ノ左ニ掲タル者ノ證明書ヲ仍ホ提出ス
 ルニ要ス
 第六 供託所ニ給付ヲ爲シタルトキハ其ノ金庫又ハ倉庫
 營業者ノ作以タル供託受領ヲ證スル書類ヲ添ヘ其ノ
 第二又反對給付ヲ受テキ者ニ給付ヲ爲シタルトキハ供
 託者ノ書面又ハ判決ノ正本
 第十條 供託者ニ於テ供託物ノ取戻ヲ爲サントスルトキハ
 前條第一項ノ手續ニ依リ其ノ請求ノ原由ヲ證スヘキ左ノ
 書類ヲ提出シ其ノ拂渡ヲ金庫ニ請求スヘシ

第六 債權者カ供託ヲ受諾セタル場合ニ於テハ其ノ事由
 第十三ヲ表示シタル債權者ノ書面
 第二ニ供託ヲ有效ト宣告シタル判決カ未確定ナル場合ニ
 於テハ其ノ判決書ノ正本
 第三 第一第二ノ場合ニ於テ供託物質權又ハ抵當權ノ消
 滅ニ關スルモノナルトキハ其ノ質權又ハ抵當權ノ消
 滅セザリシトシテ證明シ得ル書類
 第四 供託ノ原因カ消滅シ又ハ供託カ錯誤ニ出テシ場合
 於テ其ノ事實ヲ證明スル足ル書類又ハ判
 決ノ正本若シ官廳ニ對スル保證又ハ擔保
 人既シタルモナラトキハ其ノ官廳又ハ裁判所ノ證明但
 シ官吏公吏ノ公務上取扱ヲモナルトキハ其ノ事由
 第十ヲ表示シタル書面

第十一條 前二條ノ規定ニ依リ提出スヘキ書類其ノ他原由ヲ證明スルニ足ルル書類ヲ提出スルコト能ハサル正當ノ理由アル場合ニ於テハ其書面ニ代テ金庫以承諾ヲ得タル名以上ノ保證人ヲ連署ヲ以テ其ノ供託物拂戻ヲ爲メ政府ニ損害を生シタル額ハ賠償ノ責ニ任ズル旨記載セラル書面ヲ提出スルコトヲ得

第十二條 金庫ニ於テ第九條第十條ニ依レル拂渡請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ請求ノ理由アルコトヲ確認シタ後供託物ヲ請求者ニ交付スルシ但シ幾分ノ拂渡ヲ爲シタルトキハ供託受領證ニ式ニ如ク其ノ拂渡額ヲ記入シ請求者ニ返還スルコトヲ宣告スルハ供託物未滿額ニハ適合ニ

第十三條 官廳又ハ裁判所ニ於テ分割拂渡ヲ要スルトキハ第六號書式ニ請求書ニ第四條及第八條第十項ノ受領證ヲ

添ハ金庫ニ送付シ同時ニ第七號書式ヲ拂渡證書受取人ニ交付スルシ其(三十四年大藏省令第十七號)ヲ以テ本項中改正ス

受取人本於テ前項ノ拂渡證書受取人ニ於テ式ニ如ク受領證ヲ證シ供託物ハ拂渡ヲ請求スルハ金庫ニ於テ日本第十四條 金庫ニ於テ前條ノ請求ヲ受テタルトキハ拂渡證書ヲ引換ニ供託物ヲ受取人ニ交付スヘシ但シ其ノ拂渡カ幾分ニ係ルトキハ供託受領證ニ式ニ如ク拂渡額ヲ記入シ請求官廳又ハ裁判所ニ返還スルコトヲ(同上)ニ對シ

第十五條 供託金ノ利息ハ其元金並同時ニ拂渡スルコトヲ要ス但シ元金ヲ受取人トシテ利息受取人トシテ異ニスルトキハ元金拂渡ノ後利息ヲ拂渡スルハ三十六年大藏省令第二十六號ヲ以テ本條中改正ス

營業ノ保證トシテ供託シタル現金ノ利息ハ毎年一月七月ノ定期ニ於テ前月迄ニ生シタル金額ヲ計算シ供託者又ハ之ヲ受取ルルキ權利アル者ニ請求シ依リ拂渡ヲ爲スヘシ

第十六條 前條第一項ニ依ル利息ノ拂渡ヲ受クシトスルモ若シ第八號一書式ヲ請求書ヲ又第二項ニ依ル利息ノ拂渡ヲ受クシトスル者ハ同號三書式ヲ請求書ヲ金庫ニ提出ス

第十條 金庫ニ於テ前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ利息金額ヲ計算シ式ノ如ク之ヲ記入シ中央金庫ニ在テハ日本銀行ハ本支金庫ニ在テハ日本銀行ノ支店、代理店ヘ之ヲ回付スヘシ

日本銀行又ハ其ノ支店、代理店ニ於テ前項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ利息受取人ヲシテ式ノ如ク受領

其ノ現金ヲ交付スヘシ

第十八條 此ノ規程施行前ニ爲シタル供託物ヲ受取ルヘキ者ヨリ反對給付ヲ受クルコトヲ要スル供託者ハ其ノ金錢

第十九條 明治二十六年當省令第二十一號供託物取扱規程

其ノ他此ノ規程ニ牴觸スルモノハ此ノ規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第一號書式 (用紙寸法美濃判)

又ハ供託書 (金錢ト有價證券トハ各別ニ作成スルヲ要ス)

府縣郡市町村番地

供託者 何人スヘシ

一金何圓也

(第三者ニ於テ供託ヲ爲ストキハ供託者第三者ト記入スヘシ)

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

(金額拂込未済ノモノハ其ノ拂込額ヲ左側ニ記入スルコトヲ要ス以下之ニ同シ)

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

又ハ何年何月又ハ何期渡以降利札付(以下之ニ同シ)

又ハ何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

又ハ何種又ハ何種ノ簿帳又ハ何種ノ簿帳又ハ何種ノ簿帳

又ハ何種又ハ何種ノ簿帳又ハ何種ノ簿帳又ハ何種ノ簿帳

又ハ何種又ハ何種ノ簿帳又ハ何種ノ簿帳又ハ何種ノ簿帳

又ハ何種又ハ何種ノ簿帳又ハ何種ノ簿帳又ハ何種ノ簿帳

又ハ何種又ハ何種ノ簿帳又ハ何種ノ簿帳又ハ何種ノ簿帳

又ハ何種又ハ何種ノ簿帳又ハ何種ノ簿帳又ハ何種ノ簿帳

供託物ヲ受取ルヘシ者ノ指定

反對給付ノ目的物
官廳名又ハ訴訟事件名及裁判所名
右供託スヘシ者ノ指定

年 月 同日 某 印

一回飛行又ハ何金庫宛

受領書式

第何號

右受領書

年 月 日 何 金庫 印

(與書ノ式)

前書ノ金額(又ハ有價證券)正ニ領收候也

年 月 日 何 金庫 印

府縣郡市町村番地

供託物取扱規程

六八七

何金庫宛

受取人何林何

某印

(内渡書式)

内

一金何圓也

一何々公債證書額面何圓也

又八何書左

一何銀行又八何會社株券額面何圓也

又八何同日記號番號枚數記載方前ニ同シ

又八何前ニ同シ

又八何種類多數ノ別ニ内譯書ヲ添付スルモ妨ケナシ此場合ニハ
又八何本文高書ノ箇所ヘ公債證書其他額面何圓也別紙内譯書ノ通ト記入
又八何内譯書下契印スヘシ

右金額(又ハ有價證券)何年何月何日内渡濟

金庫印

第二號書式

請求書

(代供託物ト附屬供託物トハ各別ニ請求書ヲ作成スルコトヲ要ス)

一金何圓也

(所得税法第三條ノ税額ヲ控除シ其殘額ヲ記載スルコトヲ要ス)

前書金額何々公債證書(又ハ何々銀行株券)(又ハ何會社株

(與書)券)何圓何年何月(又ハ何期)渡利息(又ハ配當金)

辛(又ハ何年何月償還金)何年何月何日第何號供託

前書金額御受取相成度(又ハ別紙委任相添)請求候也

府縣郡市町村番地

何 某印

供託物取扱規程

第四號 供託物拂渡請求書

(供託受領證一葉書毎ニ請求書ヲ作成スルコトヲ要ス)

一金何圓也

(幾分ノトキハ請求額ノ上部ニ何年何月何日第何號供託受領證ノ内ト肩書スヘシ)

又ハ

一何々公債證書額面何圓也

共済券

同

某

同

一何圓券何第何番又ハ何第何番ヲ第何番マテ何枚

又ハ

一何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

又ハ

一何同記號番號枚數記載方前同同又ハ同手同月又ハ同

一何々

同前同

前書ノ金額(又ハ有價證券)供託者ノ指定ニ依リ又ハ何

年法律勅令何省令第何號ニ依リ若ハ裁判ニ依リ(供託者ニ於テ取戻)

チナサントスル場合ハ何々ノ事 拂渡相受度別紙證明書竝ニ供託受領證相添請求候也

同金庫宛

府縣郡市町村番地

年月日

受取人(又ハ供託者) 何某

印

何金庫宛

同

第五號書式

領收證書

(供託受領證一葉毎ニ領收證書ヲ作成スルコトヲ要ス)

一何年何月何日第何號供託受領證ノ内

一金何圓也

一何々公債證書額面何圓也

供託物取扱規程

六九三

一 何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚
 又ハ
 一 何銀行又ハ何會社株券額面何圓也
 同 記號番號枚數記載方前ニ同シ
 又ハ
 一 何々
 前正同方前ニ同シ

前書ノ金額(又ハ有價證券)正ニ領收候也

府縣郡市町村番地

受取人

何 某

印

何金庫宛

第六號書式 (三十四年大藏省令第十七號ヲ以テ本書式
 中改正)

此ニテ請求書(供託受領證一葉毎ニ請求書)未列也
 府縣郡市町村番地
 何年何月何日第何號受領證
 一 金何圓也
 又ハ
 一 何々公債證書額面何圓也
 何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚
 又ハ
 一 何銀行又ハ何會社株券額面何圓也
 同 記號番號枚數記載方前ニ同シ
 又ハ
 一 金何圓也
 前正同方前ニ同シ

供託物取換規程

金何圓也

又何々公債證書額面何圓也

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

又何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

同圓記號番號枚數記載方前ニ同シ

又何公債證書額面何圓也

一金何圓也 前ニ同シ

府縣郡市町村番地

受取人 何 某

右ハ何々ノ事由ニ依リ内譯ノ通拂渡證書發行候ニ付分割拂渡スコトヲ要ス依テ別紙供託受領證相添請求候也

官廳又ハ裁判所名印

年 月 日 何金庫宛

官 氏 名 印

第七號書式(同上)

供託物取扱規程

府縣郡市町村番地

供託者 何 某

何年何月何日第何號受領證ノ内ハ、其申渡各圓

一金何圓也

又金何圓也

何々公債證書額面何圓也

何圓券何第何番又ハ何第何番ヨリ第何番マテ何枚

又何銀行又ハ何會社株券額面何圓也

一 同 記號番號枚數記載方前ニ同シ

一 何々何圓ニ同シ 何々何番又ハ何々何番ニ同シ 何々何番ニ同シ

一 何々何圓ニ同シ 何々何番又ハ何々何番ニ同シ 何々何番ニ同シ

右金額(又ハ有價證券)府縣郡市町村番地何某へ拂渡ス

ト多要不也

同申同申同申 官廳又ハ裁判所名

年月日 官氏名

何金庫宛

(奥書ノ式)

前書ノ金額(又ハ有價證券)正ニ領收候也

府縣郡市町村番地

受取人 何 某

年月日 何金庫宛

官氏名

第八號一書式 (三十二年大藏省令第二十番ヲ以テ本書

式改正)

利息請求書

何年何月何日第何號供託受領證ノ金何圓ニ對スル利息仕

拂相成度請求候也 大藏省令第二十番ニ對シテ

府縣郡市町村番地

受取人 何 某

年月日 何金庫宛

(利息記入式)

一 金何圓也 利子額(利率年何分何厘)

一 金何圓也 利付額何圓ニ對スル何年

一 金何圓也 何月ヨリ何年何月マ

一 金何圓也 何々

供託物取扱規程

供託物取扱規程

七〇〇

右之通判候也

年月日

(現金領收ノ式)

前書之金額正ニ領收候也

年月日

受取人 何 某 印

日本銀行本支店宛
又ハ其代理店宛

第八號二二五十六年大藏省令第二十六號ヲ以テ追加)

營業保證金ニ係ル供託金利息請求書

何年何月何日第何號供託金何圓ニ對スル何年何月ヨリ何年何月ニ至ル利息仕拂相成度請求候也

第八號一書左(三十三)年大府縣郡市町村番地ニ以テ本書

年月日

何金庫宛

受取人 何 某 印

(利息記入證明式)

一金何圓也

内

金何圓也

自何年何月何箇月分
至何年何月

右ノ通判候也

年月日

(現金領收ノ式)

前書ノ金額正ニ領收候也

年月日

受取人 何 某 印

日本銀行本支店宛
又ハ其代理店宛

供託物取扱規程

七〇一

◎供託金ノ利息割合

(明治三十二年三月十七日) (大藏省告示第九號)

供託法第三條ニ於ケル供託金ノ利息ハ一箇年三步六厘ト定ム

◎金錢又ハ有價證券ニ非サル物品供託書式

(明治三十三年八月三日) (司法省告示第三十九號)

供託法第六條ニ依リ供託書式左ノ通相定ム

供託書

供託物

「本欄ニハ供託物ノ種類、品質、數量及シ荷造ノ種類、箇數並ニ記號等ヲ記載ス」

評價金

「金庫或ハ金銀貨、金貨、銀貨、銅貨、紙幣、金貨、銀貨、銅貨、紙幣、金貨、銀貨、銅貨、紙幣」

保管料

「本欄ニハ供託物ノ種類、品質、數量及シ荷造ノ種類、箇數並ニ記號等ヲ記載ス」

供託ノ原因

「本欄ニハ供託ノ事由及ヒ供託ノ法律ノ條項等ヲ記載ス」

供託物ヲ受取ルヘキ者ノ氏名、住所

反對給付ノ目的物

「本欄ニハ供託物ノ種類、品質、數量及シ荷造ノ種類、箇數並ニ記號等ヲ記載ス」

豫備

「本欄ニハ供託物ノ種類、品質、數量及シ荷造ノ種類、箇數並ニ記號等ヲ記載ス」

右供託候也

明治 年 月 日

府縣郡市町村番地

「府縣郡市町村番地」

「倉庫營業者氏名」

(又ハ)宛

「倉庫營業者」

金錢又ハ有價證券ニ非サル物品供託書式

◎同上物品ヲ保管スルニキ指定倉庫營業者

(大正四年一月一日現在)

東京府東京市深川區小松町七番地 東京倉庫株式會社

東京府東京市深川區黑江町三十一番地 商業倉庫株式會社

東京府南多摩郡八王子町橫山百三十二番地

八王子米穀株式會社

神奈川縣橫濱市入船町一番地 橫濱船渠株式會社

千葉縣海上郡銚子町一一番地 岡本衡平

城茨縣新治郡高濱町大字高濱七百九十五番地

高濱倉庫合名會社

栃木縣宇都宮市川向町六十七番地 下野倉庫株式會社

群馬縣前橋市田中町乙七十七番地 上毛倉庫株式會社

群馬縣高崎市赤坂村字大信寺裏六百五十二番地 高崎倉庫株式會社

山梨縣甲府市飯沼村百石町四百八十五番地 山梨縣甲府市飯沼村百石町四百八十五番地

山梨縣南都留郡谷村町三百十四番地 若尾民造

長野縣松本市南深志百九十番地 谷村委託株式會社

長野縣諏訪郡上諏訪町四百八番地 松本倉庫株式會社

長野縣上水内郡三輪村大字三輪千三百三十八番地 上諏訪倉庫株式會社

長野縣諏訪郡平野村四千七百八十二番地 三輪倉庫株式會社

長野縣小縣郡上田町大字常入千八百十八番地 諏訪倉庫株式會社

長野縣南佐久郡野澤町四百九番地 諏訪倉庫株式會社 上田支店

新潟縣新潟市船場町二丁目第三千四百二十三番地 諏訪倉庫株式會社 野澤支店

新潟縣長岡市坂上町一丁目六百七十番地 新瀨倉庫株式會社

同上物品ヲ保管スルニキ指定倉庫營業者

七〇五

新編縣刈羽郡柏崎町第千四百六十五番戶柏崎倉庫株式會社
 新潟縣中頸城郡直江津町大字直江津株式會社北越倉庫銀行
 新潟縣佐渡郡二見村大字二見二十番戶 三家 合名會社
 京都市下京區新町通七條上ノ東鹽小路町九十六番戶 合名會社村井銀行支店
 大阪府大阪市北區中ノ島五丁目九十一番屋敷 東京倉庫株式會社大阪支店
 大阪府大阪市北區中ノ島三丁目 大阪倉庫株式會社
 兵庫縣神戸市兵庫島上町七十八番屋敷 東京倉庫株式會社神戸支店兵庫出張所
 兵庫縣神戸市相生町一丁目十番地 東京倉庫株式會社神戸支店
 神戸市兵庫南逆瀬川町二丁目四十七番地井上保次郎
 滋賀縣大津市坂本町第五十番屋敷 近江倉庫株式會社
 和歌山縣和歌山市十二番町九番地 和歌山倉庫株式會社

愛知縣名古屋市泥江町二丁目四番地 名古屋倉庫株式會社
 愛知縣名古屋市天王崎町四番地 東海倉庫株式會社
 愛知縣知多郡半田町千四十八番戶 半田倉庫株式會社
 三重縣津市大字船頭町八十三番屋敷 津倉庫株式會社
 三重縣四日市市大字北納屋町 四日市倉庫株式會社
 岐阜縣岐阜市上加納四百二十一番戶 美濃倉庫株式會社
 福井縣福井市日ノ出町百十番地ノ一 合資會社
 福井縣敦賀郡敦賀町泉 森田銀行倉庫運送部
 石川縣金澤市折邊町七十八番地 金澤倉庫株式會社
 石川縣能美郡小松町字三日市町十九番地小松倉庫合資會社
 石川縣鹿島郡七尾町字生駒町二十八番地笹谷彦三郎
 富山縣富山市今木町六十番地 井上彌七

同上物品ヲ保管スルキ指定倉庫營業者

七〇八

富山縣高岡市小馬出町八十四番地 吉野 治、平
 富山縣射水郡伏木町大字古國府町八十七番地 谷 泰三、瀧
 山口縣下關市觀音崎町七十五番地 下關倉庫株式會社
 島根縣松江市大字松江分五百四十一番地 松江倉庫株式會社
 鳥取縣鳥取市藪片原町七十七番地 鳥取倉庫株式會社
 宮城縣仙臺市東五番丁二番地 合資會社宮城倉庫
 宮城縣宮城郡鹽釜町四百十六番地 鹽釜倉庫株式會社
 福嶋縣信夫郡福嶋字榮町三十七番地 福嶋誠壹株式會社
 福嶋縣西白河郡白河町字中町六十六番地 白河倉庫合資會社
 山形縣山形市香澄町字大寶寺番地 山形運輸株式會社
 秋田縣平鹿郡橫手町榮通町九番地 前田合名倉庫會社
 青森縣青森市新濱町 青森株式會社青森倉庫

青森縣弘前市大字北瓦ヶ町十九番ノ一號株式會社弘前倉庫
 北海道函館區新濱町六番地 辨天倉庫株式會社
 北海道檜山郡江差姥神町四十五番地 永瀧、松太郎
 北海道札幌區北四條西二丁目一番地 札幌倉庫株式會社
 北海道石狩國上川郡旭川町宮下通十一丁目
 北海道小樽區南濱町三丁目三番地 小樽倉庫株式會社
 樺太眞岡本町一丁目一番地 大塚家、八七、平

◎公證人法 (明治四十一年四月十四日) 法律第五十號

第一章 總則

第一條 公證人ハ當事者其ノ他ノ關係人ノ囑託ニ依リ法律
 行爲其ノ他私權ニ關スル事實ニ付公正證書ヲ作成シ及私

公證人法

七〇九

署證書ニ認證ヲ與フルノ權限ヲ有ス
 第二條 公證人ノ作成シタル文書ハ本法及他ノ法律ノ定ムル要件ヲ具備スルニ非サレハ公正ノ效力ヲ有セス
 第九條 本法及他ノ法令中公證人ノ職務ニ關スル規定ハ公證人ノ事務ヲ取扱フ判事又ハ裁判所書記ニ之ヲ準用ス但
 第七條ニ依ル手数料、日當及旅費ハ國庫ノ收入トス
 第三章 職務執行ニ關スル通則
 第二十二條 公證人ハ左ノ場合ニ於テ其ノ職務ヲ行フコト
 得ス
 一 其ノ代理人又ハ囑託セラレタル事項ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ノ配偶者、四親等内ノ親族又ハ
 同居ノ戸主若ハ家族タルトキ親族關係カ止ミタル後
 亦同シ

二 其囑託人又ハ其ノ代理人ノ法定代理人又ハ保佐人タル
 三 囑託セラレタル事項ニ付利害ノ關係ヲ有スルトキ
 四 囑託セラレタル事項ニ付代理人若ハ輔任人タルトキ
 又ハ代理人若ハ輔佐人タルトキ
 第二十三條 公證人職務上署名スルトキハ其ノ職名、所屬
 及役場所在地ヲ記載スル
 第四章 證書ノ作成
 第二十六條 公證人ハ法令ニ違反シタル事項、無効ノ法律
 行爲及無能力ニ依リテ取消スルコトヲ得ヘキ法律行爲ニ付
 證書ヲ作成スルコトヲ得ス
 第二十七條 公證人ハ日本語ヲ用ウル證書ニ非サレハ之ヲ
 作成スルコトヲ得ス

第三十八條 公證人證書ヲ作成スルニハ囑託人ノ氏名ヲ知
 第リ且之ト面識アルコトヲ要ス
 公證人囑託人ノ氏名ヲ知ラス又ハ之ト面識ナキトキハ其
 本籍地若ハ寄留地ノ市區町村長ノ作成シタル印鑑證明
 書ヲ提出セシメ又ハ氏名ヲ知リ且面識アル證人二人ニ依
 リ其人違ナキコトヲ證明セシムルコトヲ要ス但シ囑託
 人外國人ナルトキハ警察官吏又ハ帝國ニ駐在スル本國領
 事ノ證明書ヲ以テ印鑑證明書ニ代フルコトヲ得
 急迫ナル場合ニ於テ公證人法律行為ニ非サル事實ニ付證
 書ヲ作成スルトキハ前項ノ手續ハ證書ヲ作成シタル後
 三日内ニ證書ノ作成ニ關スル規定ニ依リ之ヲ爲スコトヲ
 得
 前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ證書ハ急迫ナル場合ニ非サ

此カ爲其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ又ハ同意
 第三十四條 第三項ノ規定ハ第二項ノ證人ニ之ヲ準用ス
 第二十九條 囑託人日本語ヲ解セサル場合又ハ聾者若ハ啞
 者其ノ他言語ヲ發スルコト能ハサル者ニシテ文字ヲ解セ
 サル場合ニ於テ公證人證書ヲ作成スルニ其通事又立會
 シムルコトヲ要ス
 第三十條 囑託人盲者ナル場合又ハ文字ヲ解セサル場合ニ
 於テ公證人證書ヲ作成スルニハ立會人又立會ハシムルコ
 トヲ要ス
 前項ノ規定ハ囑託人立會人ヲ立會ハシムルコトヲ請求シ
 タル場合ニ之ヲ準用ス
 第三十一條 代理人ニ依リ囑託セラレタル場合ニ於テ前
 第三條ノ規定ハ其ノ代理人ニ之ヲ適用ス

第三十二條 代理人ニ依リ囑託セラレタル場合ニ於テ公證人證書ヲ作成スルニハ其ノ代理人ノ權限ヲ證スヘキ證書ヲ提出セシメ其ノ權限ヲ證明セシムルコトヲ要ス
 前項ノ證書カ認證ヲ受ケサル私署證書ナルトキハ其人證書ノ外其ノ署名者ノ本籍地又ハ寄留地ノ市區町村長ノ作成シタル印鑑證明書ヲ提出セシメ證書ヲ真正ナルコトヲ證明セシムルコトヲ要ス但シ其ノ署名者外國人ナルトキハ第二十八條第二項但書ノ規定ヲ準用ス
 證書ノ作成ニ關スル規定ニ依リ代理又ハ其ノ方式ノ欠缺ヲ追完シタルトキハ證書ハ其ノ欠缺アリタルカ爲效力ヲ妨ケラルルコトナシ
 第三十三條 第三者ノ許可又ハ同意ヲ要スヘキ法律行爲ニ付公證人證書ヲ作成スルニハ其ノ許可又ハ同意アリタル

コトヲ證スヘキ證書ヲ提出セシメ其ノ許可又ハ同意ヲ證明セシムルコトヲ要ス
 前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス其第三十四條ノ通事及立會人ハ囑託人又ハ其ノ代理人之ヲ選定スルコトヲ要ス
 立會人ハ通事ヲ兼ヌルコトヲ得言ニハ其ノ本旨ハ代式ノ左ニ掲クル者ハ立會人タルコトヲ得
 一 未成年者
 二 第十四條ニ掲ケタル者
 三 自ラ署名スルコト能ハサル者
 四 囑託事項ニ付利害ノ關係ヲ有スル者
 五 囑託事項ニ付代理人若ハ輔佐人タル者又或代理人若ハ輔佐人タリシ者
 六 公輔佐人タリシ者

- 六 公證人又ハ囑託人若ハ其ノ代理人ノ配偶者、四親等内ノ親族、同居ノ戸主若ハ家族、法定代理人、保佐人、雇人又ハ同居人關與マシムル者
 - 七 公證人ノ筆生
- 第三十五條 公證人證書ヲ作成スルニハ其ノ聽取シタル陳述、其ノ目撃シタル狀況其ノ他自ラ實驗シタル事實ヲ錄取シ且其ノ實驗ノ方法ヲ記載シテ之ヲ爲スコトヲ要ス
- 第三十六條 公證人ノ作成スル證書ニハ其ノ本旨ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
- 一 證書ノ番號及立會人ハ囑託人又ハ其ノ代理人ノ姓名
 - 二 囑託人ノ住所、職業、氏名及年齡若法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所
 - 三 代理人ニ依リ囑託セラレタルトキハ其ノ旨及其ノ代

- 四 代理人ノ權限ヲ證スヘキ證書ヲ提出セシメ其ノ權限ヲ證明セシメタルトキハ其ノ住所、職業、氏名及年齡若法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所
- 五 囑託人又ハ其ノ代理人ノ氏名ヲ知リ且之ト面識アルトキハ其ノ旨及事務所
- 六 第三者ノ許可又ハ同意アリタルコトヲ證スヘキ證書ヲ提出セシメ其ノ許可又ハ同意ヲ證明セシメタルトキハ其ノ旨及其ノ事由並其ノ第三者ノ住所、職業、氏名及年齡若法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所
- 七 市區町村長ノ作成シタル印鑑證明書又ハ警察官吏若ハ領事ノ證明書ヲ提出セシメ人違ナキコト又ハ證書ハ真正ナルコトヲ證明セシメタルトキハ其ノ旨及其ノ事由並其ノ面識アル人並其ノ住所、職業、氏名及年齡若法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所

其ノ旨ヲ證書ニ記載スルコトヲ要ス
 通事ヲ立會ハシメタル場合ニ於テハ前項ノ外通事ヲシテ
 證書ノ趣旨ヲ通譯セシメ且其ノ旨ヲ證書ニ記載スルコト
 ヲ要ス
 前三項ノ記載ヲ爲シタルトキハ公證人及列席者各自證書
 ニ署名捺印スルコトヲ要ス
 列席者ニシテ署名スルコト能ハサル者アルトキハ其ノ
 旨ヲ證書ニ記載シ公證人及立會人之ニ捺印スルコトヲ要
 ス
 證書數葉ニ涉ルトキハ公證人、囑託人又ハ其ノ代理人及
 立會人ハ每葉ノ綴目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス
 證書ハ公證人、囑託人若シテ其ノ代理人又ハ立會人ノ契印

第四十條ニ依テ其ノ全部ノ連綴明白ナル場合共於テ前項ニ違反
 シタルカ爲其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ
 第四十條ニ公證人ノ作成スル證書ニ他ノ書面ヲ引用シ且之
 其ノ證書ニ添附スルトキハ公證人、囑託人又ハ其ノ代
 理人及立會人其ノ證書ト添附書面トノ綴目ニ契印ヲ爲ス
 前項ノ要スルコトヲ對稱五本ノ契印ニ對シテ前項ノ要ス
 前三條ニ規定ハ前項ノ添附書面ニ之ヲ準用ス
 前三項ニ依ル添附書面ハ公證人ノ作成シタル證書ノ一部
 第四十八條ニ依ル證書ノ正本ニハ左ノ事項ヲ記載シ公證人之ニ
 署名捺印スルコトヲ要ス
 一 證書ノ全文日
 二 正本タル未トスル者ハ其ノ旨ヲ記載シタル證書ノ
 公證人法

三 交付ヲ請求シタル者ノ氏名
 四 作成ノ年月日及場所
 前項ノ規定ニ違反スルモノハ證書ノ正本タルノ效力ヲ有
 第四十九條 數事件ヲ列記スル證書又ハ數人各自ニ關係ヲ
 異ニスル證書ニ付テハ有用ノ部分及證書ノ方式ニ關スル
 記載ヲ抄録シテ其ノ正本ヲ作成スルコトヲ得
 前項ノ正本ニハ抄録正本タルコトヲ記載シ前條第一項第
 二號ノ記載ニ代フルコトヲ要ス
 第五十條 公證人證書ノ正本ヲ交付シタルトキ其ノ證書
 ノ末尾ニ囑託人又ハ其ノ承繼人何某人爲正本ヲ交付シタ
 ル旨及其ノ交付ノ年月日ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ
 第五十六條 證書ノ正本若ハ謄本又ハ其ノ附屬書類ノ謄本

數葉ニ涉ルトキハ公證人ハ每葉ノ綴目ニ契印ヲ爲スヘシ
 第三十七條及第三十八條ノ規定ハ證書ノ正本及謄本並其
 ノ附屬書類ノ謄本又作成ニ之ヲ準用ス
 第五十七條 第十八條第二項ノ規定ハ公證人遺言書ヲ作成
 スル場合ニ第三十八條乃至第五十二條ノ規定ハ公證人
 拒絶證書ヲ作成スル場合ニ之ヲ適用セヌ
 第五章 認證書
 第五十八條 公證人私署證書ニ認證書ヲ與タルニ當事者其
 署名若ハ捺印ヲ自認シタルトキ其ノ旨ヲ記載シテ之ヲ爲
 スコトヲ要ス
 私署證書ノ謄本ニ認證書ヲ與フルルハ證書ト對照シ其ノ符
 合スルコトヲ認メタルトキ其ノ旨ヲ記載シテ之ヲ爲スコ
 公證人法

合ヲ要ス
 私署證書ニ文字ノ挿入、削除、改竄、欄外ノ記載其外他
 訂正アル事キ又ハ破損若ハ外見上著ク疑フヘキ點アルト
 其ノ狀況ヲ認證文ニ記載スルコトヲ要ス
 第五十九條 認證ヲ與フヘキ證書ハ登簿番號、認證ノ年
 月日及其ノ場所ヲ記載シ公證人及立會人之ニ署名捺印シ
 且其ノ證書ト認證簿トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第六十條 第二十六條乃至第三十四條、第二十七條、第三十
 八條並第三十九條第五項及第六項ノ規定ハ私署證書ヲ認
 証ヲ與フル場合ニ之ヲ準用ス
 第七十章 監督及懲戒
 第七十八條 囑託人又ハ利害關係人密公證人ノ事務取扱
 對テ抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ抗告ハ本章ニ掲ケタル監督權ニ依テ之ヲ處分ス

◎公證人手數料規則(明治四十二年六月二十九日勅令第四百七十四號)

- 第一條 公證人ノ受テヘキ手數料ハ日當及旅費ハ本令ノ定
 ムル所ニ依ル
- 第二條 法律行為ニ付テノ證書作成ノ手數料ハ本令ニ別段
 不定アル場合ヲ除ク外左ノ區別ニ從フ
- 第三條 法律行為ノ目的ノ價額百圓迄ハ一圓、百圓以上一圓
 以上二百五十圓迄ハ一圓二十五錢、二百五十圓以上
 同 五百圓迄ハ二圓五十錢、五百圓以上同 七百五十圓迄
 同 七百五十圓迄ハ三圓七十五錢、同 一千圓迄ハ四圓
 同 二千五百圓迄ハ七圓五十錢

同 五千圓迄

三圓正十錢

同五千圓ヲ超過スルトキハ五萬圓迄ハ五千圓毎ニ五十錢ヲ加フ但シ五千圓ニ滿タサルモ之ヲ五千圓トス同五萬圓ヲ超過スルトキハ一萬圓毎ニ五十錢ヲ加フ但シ一萬圓ニ滿タサルモ之ヲ一萬圓トス

第三條 法律行為ノ目的ノ價額ハ公證人カ證書ノ作成ニ著手シタル時其價額ニ依ル

第四條 當事者雙方ノ囑託ニ因リ證書ヲ作成スル場合ニ於テハ法律行為ノ目的ノ價額ハ各給付ノ價額ヲ合算シタル額ニ依ル但シ當事者ノ一方ノ給付ノミカ金錢ヲ目的トスルモノナルトキハ其ノ二倍ノ額ニ依ル

第五條 當事者ノ一方ノ囑託ニ因リ證書ヲ作成スル場合ニ於テハ囑託人カ給付ノ價額ヲ以テ法律行為ノ目的ノ價額

トス但シ相手方カ給付カ金錢ヲ目的トスルモノナルトキハ其ノ額ニ依ル

第六條 主タル法律行為ト共ニ附隨ノ法律行為ニ付證書ヲ作成スル場合ニ於テハ主タル法律行為ニ依リ手数料ヲ算定ス

第七條 債權ノ擔保ノ價額ハ其ノ目的ノ價額ト債權ノ額トヲ比較シ其ノ少キ額ニ依ル

擔保ノ移轉ヲ目的トスル法律行為ニ付テハ擔保ノ價額ト移轉ニ因リテ擔保ヲ付セラルヘキ債權ノ額トヲ比較シ其ノ少キ額ニ依ル

擔保ノ順位ノ移轉ヲ目的トスル法律行為ニ付テハ其ノ移轉ニ因リテ優先ノ順位ヲ取得スヘキ擔保ノ價額ト之ヲ喪失スヘキ擔保ノ價額トヲ比較シ其ノ少キ額ニ依ル

第八條 地役ノ價額小地役ニ因リテ生スル要役地ノ増價額
 承役地ノ減價額トヲ比較シ其ノ多キ額ニ依ル
 第九條 定時ノ給付ノ價額ハ全期間ノ給付ノ總價額ニ依ル
 但シ其ノ價額ハ動産ノ賃貸借ニ付テハ一年、不動産ノ賃
 貸借及商工業ノ見習ヲ目的トセサル雇傭契約ニ付テハ五
 年其ノ他ノ場合ニ於テハ十年分ノ給付ノ價額ニ超ユル
 期間ノ定キ定時ノ給付ノ價額ハ前項但書ニ定ムル期間
 内ニ給付ノ總價額ニ依ル
 前項ノ場合ニ於ケル相手方ノ給付ノ目的カ金錢ニ非テ
 莫大ナキ其ノ價額ニ定時ノ給付ノ價額ト同シト看做ス
 第十條 當事者一方ノ給付ノミノ價額ヲ算定スルコト能ハ
 サルトキ其ノ給付相手方ノ給付ト同一ノ價額ヲ有ス

第十條 損害賠償及費用カ法律行為ノ附帶目的
 其ノ本キハ其ノ價額ニ之ヲ法律行為ノ目的ノ價額ニ算入
 第十二條 法律行為ノ目的ノ價額ヲ算定スルコト能ハサル
 前キハ其ノ目的ハ五百圓ノ價額ヲ有スルモノト看做ス但
 シ其ノ最低價額五百圓ニ超エ又ハ其ノ最高價額之ニ滿タ
 ズルモノト明カナルトキハ其ノ最低價額又ハ最高價額ヲ以
 テ法律行為ノ目的ノ價額トス
 第十三條 左ニ掲クル事項ニ付證書ヲ作成スル場合ニ於テ
 第十四條 ノ區別ニ從ヒ其ノ十分ノ五ノ割合ヲ以テ手數料
 受取人全額又ハ其ノ額ノ半額ニ付成スル場合ニ
 一 承認許可及同意

二 當事者雙方之履行セサル契約ノ解除
 三 遺言ノ全部又ハ一部ノ取消
 四 同一人ノ公證人役場ニ於テ證書ヲ作成セラレタル法律
 第十三行爲ノ補充又ハ更正
 第十四條 法律行爲ニ付テハ證書作成ノ手數料ハ證書ノ紙
 數四枚ヲ超過スルトキハ超過シタル部分ニ付テハ一枚毎ニ四
 十錢ヲ加フ
 前項ノ紙數ハ行ニ十字詰ニ十四行ヲ以テ一枚トシ但シ
 第十枚ニ滿タラズトキハ雖之ヲ一枚トスルハモイテハ
 第十五條 法律行爲ニ非サル事實ニ付テハ證書作成ノ手數
 料ハ本令ニ別段ノ定メタル場合ヲ除ク外其人ノ事實ノ實驗
 及證書ノ作成ニ要シタル時間ニ付テハ圓一圓トス但シ前
 時間ヲ超過スルトキハ一時間毎ニ五十錢ヲ加フ

前項ノ時間ハ書時間ニ滿タサルトキト雖之ヲ一時間トス
 第十六條 株主總會其ノ他ノ集會ノ決議ニ付證書ヲ作成ス
 ル場合ニ於テハ前條ノ例ニ依リ手數料ヲ受ク
 第十七條 法律行爲ト其ニ之ト牽連スル事實ニ付證書ヲ作
 成スル場合ニ於テハ手數料ハ第十五條ノ例ニ依ル但シ其
 額カ法律行爲ノ額ト付テハ證書作成ノ手數料ノ額ヨリ
 少キトキハ其ノ多キ額ニ依ル
 第十八條 數個ノ牽連セサル事實ニ付證書ヲ作成スル場合
 ニ於テハ手數料ノ額ハ各事實ニ付テハ算定スル記載ヲ爲
 第十九條 秘密證書ニ依ル遺言書ノ方式ニ關スル記載ヲ爲
 第二十条 委任狀、受取書又ハ拒絕證書ヲ作成スル場合ニ
 於テハ其ノ手數料ハ五十錢トス

第十五條 第三項但書及第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 公證ノ手續料ハ證書作成ノ手續料ノ十分ノ五割トス

第十七條 公證ノ手續料ハ確定日附ヲ附スル場合ニ於テハ其額ノ手續料ハ三十錢トス

第十八條 公證ノ手續料ハ其ノ執行文ヲ付與スル場合ニ於テハ其額ノ手續料ハ五十錢トス

第十九條 公證ノ手續料ハ其ノ附屬書類ハ謄本ノ交付ニ付テハ其ノ手續料ハ一枚ニ付十五錢トス但シ公證ノ手續料ハ其ノ附屬書類ハ謄本ノ交付ニ付テハ其ノ手續料ハ一枚ニ付十錢トス

第二十條 公證ノ手續料ハ其ノ附屬書類ハ謄本ノ交付ニ付テハ其ノ手續料ハ一枚ニ付十錢トス

第二十一條 公證ノ手續料ハ其ノ附屬書類ハ謄本ノ交付ニ付テハ其ノ手續料ハ一枚ニ付十錢トス

第二十二條 公證ノ手續料ハ其ノ附屬書類ハ謄本ノ交付ニ付テハ其ノ手續料ハ一枚ニ付十錢トス

第二十三條 公證ノ手續料ハ其ノ附屬書類ハ謄本ノ交付ニ付テハ其ノ手續料ハ一枚ニ付十錢トス

第二十四條 公證ノ手續料ハ其ノ附屬書類ハ謄本ノ交付ニ付テハ其ノ手續料ハ一枚ニ付十錢トス

第二十五條 公證ノ手續料ハ其ノ附屬書類ハ謄本ノ交付ニ付テハ其ノ手續料ハ一枚ニ付十錢トス

數料ハ一回ニ付十錢トス

第二十六條 公證ノ手續料ハ其ノ附屬書類ハ謄本ノ交付ニ付テハ其ノ手續料ハ一枚ニ付十錢トス

第二十七條 公證ノ手續料ハ其ノ附屬書類ハ謄本ノ交付ニ付テハ其ノ手續料ハ一枚ニ付十錢トス

第二十八條 公證ノ手續料ハ其ノ附屬書類ハ謄本ノ交付ニ付テハ其ノ手續料ハ一枚ニ付十錢トス

第二十九條 公證ノ手續料ハ其ノ附屬書類ハ謄本ノ交付ニ付テハ其ノ手續料ハ一枚ニ付十錢トス

第三十條 公證ノ手續料ハ其ノ附屬書類ハ謄本ノ交付ニ付テハ其ノ手續料ハ一枚ニ付十錢トス

第三十一條 公證ノ手續料ハ其ノ附屬書類ハ謄本ノ交付ニ付テハ其ノ手續料ハ一枚ニ付十錢トス

第三十二條 公證ノ手續料ハ其ノ附屬書類ハ謄本ノ交付ニ付テハ其ノ手續料ハ一枚ニ付十錢トス

第三十三條 公證ノ手續料ハ其ノ附屬書類ハ謄本ノ交付ニ付テハ其ノ手續料ハ一枚ニ付十錢トス

第三十四條 公證ノ手續料ハ其ノ附屬書類ハ謄本ノ交付ニ付テハ其ノ手續料ハ一枚ニ付十錢トス

第三十五條 公證ノ手續料ハ其ノ附屬書類ハ謄本ノ交付ニ付テハ其ノ手續料ハ一枚ニ付十錢トス

第三十六條 公證ノ手續料ハ其ノ附屬書類ハ謄本ノ交付ニ付テハ其ノ手續料ハ一枚ニ付十錢トス

第三十七條 公證ノ手續料ハ其ノ附屬書類ハ謄本ノ交付ニ付テハ其ノ手續料ハ一枚ニ付十錢トス

第三十八條 公證ノ手續料ハ其ノ附屬書類ハ謄本ノ交付ニ付テハ其ノ手續料ハ一枚ニ付十錢トス

第三十九條 公證ノ手續料ハ其ノ附屬書類ハ謄本ノ交付ニ付テハ其ノ手續料ハ一枚ニ付十錢トス

第四十條 公證ノ手續料ハ其ノ附屬書類ハ謄本ノ交付ニ付テハ其ノ手續料ハ一枚ニ付十錢トス

第三十條 左ノ日當及旅費ヲ受ク但シ日當ヲ受クルニ一里以外ノ地ニ至リタルトキ、宿泊料ヲ受クルハ宿泊ヲ要シタルト

キニ限ルニ付、受クル手續料ハ、宿泊料ノ額ニ減算スルコトヲ得、
十日以上當國ニ一日ニ付、受ク三圓但シ四時間以内ニ二圓

第三十一條 汽車賃事由一哩迄毎ニ完結五錢、
汽船賃事由一海里迄毎ニ又五錢、
二車馬賃 一里迄毎ニ三錢、
宿泊料 一泊ニ付 三圓

第三十二條 公證人ハ手数料、日當及旅費ノ額ヲ減スルコトヲ得、
第三十三條 公證人ハ囑託人アル場合ニ於テハ公證人ノ受ク

ルキ手数料、日當及旅費ハ各囑託人連帶ニテ之ヲ支拂フ

第三十四條 公證人ハ囑託人アル場合ニ於テハ公證人ノ受ク

ルキ手数料、日當及旅費ハ各囑託人連帶ニテ之ヲ支拂フ

第三十五條 公證人ハ囑託人アル場合ニ於テハ公證人ノ受ク

ルキ手数料、日當及旅費ハ各囑託人連帶ニテ之ヲ支拂フ

第三十六條 公證人ハ囑託人アル場合ニ於テハ公證人ノ受ク

ルキ手数料、日當及旅費ハ各囑託人連帶ニテ之ヲ支拂フ

第三十七條 公證人ハ囑託人アル場合ニ於テハ公證人ノ受ク

ルキ手数料、日當及旅費ハ各囑託人連帶ニテ之ヲ支拂フ

第三十八條 公證人ハ囑託人アル場合ニ於テハ公證人ノ受ク

ルキ手数料、日當及旅費ハ各囑託人連帶ニテ之ヲ支拂フ

囑託人概算額ノ豫納又ハ供託ヲ爲ササルトキハ公證人ハ其ノ囑託ヲ拒ムコトヲ得前項ノ豫算額其期滿後ハロイモ第三十六條ノ公證人手数料、日當及旅費ノ支拂ヲ請求スル策下キテ計算書ヲ交付スルコトヲ要ス豫算額日當及旅費ノ計算書ニハ各項目ニ村本令ノ條項ヲ指示シ其ノ計算ヲ明ニスヘシメ得ル豫算額其期滿後ハ公證人ハ手續料、日當及旅費第三十七條 囑託人手数料、日當及旅費ノ支拂ヲ爲ササルキキハ公證人ハ囑託セラレタル事項ニ付正本、謄本及執行文ノ付與ヲ拒絶スルコトヲ得日當及旅費ノ支拂ヲ請第三十八條 區裁判所カ公證人ノ職務ヲ行フ場合ニ於テハ手数料、日當及旅費並ニ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付セザルハ下キ得ル日當及旅費を受ケルハ其ノ支拂スルニ其ノ文書第三十二條附公證規則ハ公五ノ效力ヲ有サセハ文書ノ封切ニ

本令ハ公證人法施行ノ日ヨリ之ヲ施行スルコト本令施行ノ際未タ完結セサル事項ニ付テノ手数料、日當及旅費ハ公證人規則ニ依ル

◎地所質入書入規則(明治六年一月十七日 布告第十八號)

第十一條 地所ハ勿論地券ノミタリトモ外國人へ賣買質入書入等致シ金子請取又ハ借受候儀一切不相成候事(民法施行法第九條ヲ以テ本條ヲ除ク外廢止ス)

◎外國人ノ抵當權ニ關スル件(明治三十二年三月十六日 法律第六十七號)

土地ノ抵當權者ナル外國人カ增價競賣ヲ請求スルニハ若シ競賣ニ於テ第三取得者カ提供シタル金額ヨリ十分ノ一以上

地所質入書入規則

高價ニ抵當不動産ヲ賣却スルコト能ハサルトキハ提供金額
キ十分ノ一ヲ加ヘタルモノト競落價額ト差額ヲ負擔スヘ
キ旨ヲ附言スルコトヲ要ス

◎利息制限法

(明治十年九月十一日
布告第六十六號)

第一條 凡ソ金銀貸借上ノ利息ヲ分テ契約上ノ利息ト法律
上ノ利息トス

第二條 契約上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定メ得ベ
キ所ノ利息ニシテ元金百圓以下ハ一ケ年ニ付百分ノ二十

以下トス若シ此制限ヲ超過スル分ハ裁判上無効ノモノト
本シ各其制限ニマテ引直サシムヘシトシテモ手廻轉ノ日常又

第三條 (民法施行法第五十二條ヲ以テ削除)

第四條 第二條ニ依リ定限利息ノ外總テ人民相互ノ契約ヲ
以テ禮金棒利等ノ名目ヲ用ル者アルトモ總テ裁判上無効

第五條 返還期限ヲ違フルトキハ債主ヨリ債主ニ對シ若
干ノ償金罰金違約金料料等ヲ差出スヘキコトヲ約定スル

債主ノ事實受ケタル損害ノ補償ト看做シ裁判官ニ於テ該
キハ之レニ相當ノ減少ヲ爲スコトヲ得 (商法施行法第百
十七條參看)

◎記名ノ國債ヲ目的トスル質權ノ設定ニ關スル件

(明治三十七年四月一日
法律第十七號)

民法第三百六十四條第一項ノ規定ハ記名ノ國債ニハ之ヲ適

記名ノ國債ヲ目的トスル質權ノ設定ニ關スル件 七四〇

用セス三百六十四號業ヲ再ハ賦家ハ諸各ノ國債ニハ之ノ敵

◎不動産登記法 (明治三十二年二月 法律第二十四號)

第五百五十五條 抗告裁判所カ抗告ヲ理由アリトスルトキハ

決定ヲ以テ登記官吏ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

抗告裁判所ハ登記上ノ利害關係人ニ決定ノ謄本ヲ送達ス

ルコトヲ要ス

第五百五十八條 抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ違背シ

タル決定ナルコトヲ理由トスルトキニ限り抗告ヲ爲スコ

業トヲ得

第五百五十四條乃至第五百五十七條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之

ヲ準用ス

第五百五十九條 送達ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用シ抗

告ノ費用ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

◎船舶登記規則 (明治三十二年六月 勅令第二七〇號)

第一條 不動産登記法第二條乃至第七條、第九條第一項、

第十條、第十二條、第十三條、第十八條乃至第三十五條第

三十八條乃至第六十六條、第六十九條乃至第七十八條第

百一一條、第一百二條、第八條、第十七條、第十九條、第

百二十條、第二百二條乃至第二百二十七條、第四百十一

條、第四百十二條、第四百十四條乃至第四百十八條及ヒ第

百四十九條ノ二乃至第四百四十九條ノ五及ヒ第五百十條乃

至第五百十九條ノ規定ハ船舶ノ登記ニ之ヲ準用ス

◎華越世襲相續法 (明治三十四年 法律第二十四號)

◎華族世襲財產法

(明治十九年四月 勅令第三十四號)

第一條 華族戸主滿二十年以上ノ者ハ此法ニ依リ世襲財產

ヲ創設スルコトヲ得但滿二十年以下ノ者ト雖旧前代戸主

ノ遺言アルトモキハ世襲財產ヲ創設スルコトヲ得

第十二條 世襲財產ノ純收益ハ如何ナル場合ト雖債主ヨ

リ毎年其三分一以上ヲ差押フルコトヲ得

第三十八條 民法第六十六條ノ第六十條ノ第六十八條

◎永代借地權ニ關スル件

(明治三十四年九月二十一日 法律第三十九號)

第一條 政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲

ニ設定シタル永代借地權ハ之ヲ物權トシ民法中所有權ニ

關スル規定ヲ準用ス

永代借地權ハ民法ノ規定ニ從ヒ他ノ權利ノ目的タルコト

ヲ得

地券、條約又ハ法令ニ別段ノ定メタル場合ニハ前二項

規定ヲ適用セズ

第二條 永代借地權ノ移轉アリタルトモキハ其ノ土地ノ所在

地ヲ管轄スル地方廳ニ於テ地券ニ其ノ旨ヲ記載スルニ非

サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二條ノ二 永代借地權ノ競賣ニ付テハ本法ニ別段ノ定メ

ルモノヲ除クハ外民事訴訟法及競賣法中不動産ノ競賣ニ

關スル規定ヲ準用ス(四十二年法律第六十二號ヲ以テ追

加)

◎國籍喪失者ノ權利ニ關スル件

(明治三十二年三月二十九日 法律第九十四號)

國籍喪失者ノ權利ニ關スル件

日本ノ國籍ヲ失ヒタル家族カ日本人ニ非サレハ享有スルコトヲ得サル權利ヲ有スル場合ニ於テ一年內ニ之ヲ日本人ニ讓渡ササルトキハ其權利ハ國庫ニ歸屬ス

◎戶籍法

(大正三年三月三十一日) 法律第二十六號

第七十三條 裁判所ハ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ却下シ理由アリトスルトキハ市町村長ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス
抗告ヲ却下シ又ハ處分ヲ命スル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲シ市町村長及ヒ抗告人ニ送達スルコトヲ要ス
第七十九條 過料ノ裁判ハ過料ニ處セラルヘキ者ノ住所又ハ居所ノ地ヲ管轄スル區裁判所之ヲ爲ス其裁判及ヒ裁判ノ執行ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

◎年齡計算ニ關スル件

(明治三十五年十二月) 法律第五十號

年齡ハ出生ノ日ヨリ之ヲ起算ス
民法第四百十三條ノ規定ハ年齡ノ計算ニ之ヲ準用ス
明治六年第三十六號布告ハ之ヲ廢止ス

◎司法ニ關スル法律ヲ樺太ニ施行スルノ件

(明治四十年三月) 勅令第九十四號

- 第一條 左ニ掲クル法律ハ之ヲ樺太ニ施行ス
- 一 法例
- 二 裁判所構成法
- 三 裁判所構成法施行條例
- 四 執達吏規則
- 五 執達吏手数料規則

- 七 公證人法（明治三十三年法律第十七號）
- 八 民法（明治三十一年法律第二十號）
- 九 民法施行法（明治三十一年法律第二十一號）
- 十 明治三十五年法律第五十號
- 十一 地所質入書入規則（明治三十五年法律第五十號）
- 十二 不動產登記法（明治三十二年法律第五十號）
- 十三 利息制限法（明治三十二年法律第五十號）
- 十四 供託法（明治三十二年法律第五十號）
- 十五 明治三十二年法律第五十號
- 十六 商法（明治二十九年法律第三十二號）
- 十七 商法施行法（明治二十九年法律第三十二號）
- 十八 明治二十三年法律第三十二號商法（明治二十三年法律第三十二號）
- 十九 商法施行條例（明治二十三年法律第三十二號）

- 二十四 明治三十三年法律第十七號
- 二十五 刑法（明治三十一年法律第二十號）
- 二十六 民事訴訟法（明治三十一年法律第二十一號）
- 二十七 民事訴訟費用法（明治三十一年法律第二十二號）
- 二十八 民事訴訟用印紙法（明治三十一年法律第二十三號）
- 二十九 家資分散法（明治三十一年法律第二十四號）
- 三十 人事訴訟手續法（明治三十一年法律第二十五號）
- 三十一 商事非訟事件印紙法（明治三十一年法律第二十六號）
- 三十二 非訟事件手續法（明治三十一年法律第二十七號）
- 三十三 競賣法（明治三十一年法律第二十八號）
- 三十四 刑事訴訟法（明治三十一年法律第二十九號）
- 三十五 裁判所及臺灣總督府法院共助法（明治三十一年法律第三十號）

六十二 外國裁判所ノ囑託ニ因リ共助法

第二條 樺太ニ於ケル土人ノ外ニ關係者ナキ民事ニ關スル事項及土人ノミニ對スル刑事ニ關スル事項ハ從來ノ慣例ニ依ル
前項ニ關スル訴訟手續ハ裁判所ノ便宜ニ從フ

第七條 民事訴訟法第六十七條第一項及刑事訴訟法第十
六條第一項ノ場合ニ於テハ海陸路四里毎ニ一日ヲ伸長ス

四十一 ◎外國人ノ署名捺印及無資力証明ニ關スル件

(明治三十二年三月
法律第五十號)

第三條 法令ノ規定ニ依リ署名、捺印スヘキ場合ニ於テハ
外國人ハ署名スルヲ以テ足ル

捺印ノミヲ爲スヘキ場合ニ於テハ外國人ハ署名ヲ以テ捺
印ニ代フルコトヲ得

◎刑法

(明治四十年四月二十四日
法律第四十五號)

第一編 總則

第一章 法例

第一條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國内ニ於テ罪ヲ犯シタル者
ニ之ヲ適用ス

帝國外ニ在ル帝國船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦
同シ

第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

第九十五條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴
行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處
ス
公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲
メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第五十八條 前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦

同シ
前二項ノ外權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
第十九章 印章偽造ノ罪
第六十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役又ハ公署又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ
第六十六條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス又ハ罰金ニ處ス

公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者亦同シ
 第六十八條 第六十四條第二項、第六十五條第二項、第六十六條第二項及七前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
 第二十五章 瀆職ノ罪
 第九十三條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行ヲ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 第九十四條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 第九十五條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴

行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ
 第九十六條 前二條ノ罪ヲ犯シ依テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス
 第九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス依テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
 前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徵スルコトハ刑罰ノ執行員又ハ刑罰執行官ノ職務ニ關シ

第六十條 民私訴ハ公訴ニ附帶スルトキハ民事訴訟ノ方式ニ依ラス書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第六十二條 左ニ記載シタルモノヲ以テ公訴ニ關スル訴訟費用トス

一 豫審、公判ニ付キ呼出シタル證人、鑑定人及ヒ通事

ニ給與ス可キ日當、旅費及ヒ止宿料

第六十六條ニ記載シタル費用

第六十三條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ左ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム

第一 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金二十錢乃至金五十錢但止宿料ヲ給與スル場合ニ於テハ日當ヲ給與セス

第二 鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金三十錢乃至金五十圓

第六十四條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ旅費ハ海陸路一里ニ付キ金五錢乃至金二十錢ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但通路兩線以上アルトキハ最近

ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

前項ニ掲ケタル者ノ止宿料ハ一日ニ付キ金二十錢乃至金一圓ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ

定ム但八里以上ノ地ヨリ來リ滞在スルトキニ非サレハ之ヲ給與セス

第六十五條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ日當、旅費及ヒ止宿

料ハ豫審ニ於テハ其終結前、公判ニ於テハ其判決前ニ本人ヨリ請求スルニ非サレハ之ヲ給與セス

第六十六條 鑑定、通譯ニ付キ數多ノ時間又ハ特別ノ技能若クハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給

第六十七條 共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ノ連帶負擔トス

警察犯處罰令

明治四十一年九月二十九日
內務省令第十六號

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又

ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

四ノ入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ強請シ若ハ落札人

第六圓ニ對シ其ノ事業又ハ利益ノ分配若ハ金品ヲ強請シタ

二十圓ニ對シ其ノ事業又ハ利益ノ分配若ハ金品ヲ強請シタ

二十圓ニ對シ其ノ事業又ハ利益ノ分配若ハ金品ヲ強請シタ

三十圓未滿ニ他人ノ身邊ニ立塞リ又ハ追隨シタル者

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圓未滿ノ科料ニ

處ス

入故チ官公署ノ召喚ニ應セサル者

第四條 本令ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタ

ル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑免

除スルコトヲ得

刑事訴訟法

明治二十三年十月七日
法律第九十六號

第二條 刑事訴訟ニ依リ生シタル損害ノ賠償、贓物ノ返

還ヲ目的トスルモノニシテ民法ニ從ヒ被害者ト屬ス

第十九條 民事訴訟法ニ規定スル民事訴訟ノ規定アラサ

キハ民事訴訟法ニ規定ヲ準用ス

第三編 犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

刑事訴訟法

第一章 捜査

第四十九條 告知及ヒ告發

犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ告訴スルコトヲ得
司法警察官告訴ヲ受ケタルトキハ違警罪ニ付キ即決ヲ爲ス場合ヲ除ク外速ニ其書類ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致ス可シ

第五十二條 官吏、公吏其職務ヲ行フニ依リ犯罪アルコト

ヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ速ニ其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ告發ス可シ
告發ハ官吏、公吏ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ成ル可ク證據及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ添フ可シ

第三章 豫審

第一節 令狀

第七十六條 總テ令狀ハ被告事件及ヒ被告人ノ氏名、職

業、住所ヲ記載ス可シ但召喚狀ヲ除ク外其氏名分明ナラザルキハ容貌、體格等ヲ明示ス可シ
又令狀ニハ之ヲ發スル年月日時ヲ記載シ判事及ヒ裁判所、書記署名捺印ス可シ
召喚狀ハ執達吏ヲシテ被告人ニ送達セシメ勾引狀、勾留狀ハ巡查、憲兵卒ヲシテ之ヲ執行セシム
第七十七條 勾引狀、勾留狀ハ時宜ニ依リ正本數通ヲ作り巡查、憲兵卒數人ニ分付スルコトアル可シ
勾引狀、勾留狀ヲ執行スルニハ其正本ヲ携帶シ被告人ノ請求アルトキハ之ヲ示ス可シ (三十二年法律第七十三號)

ヲ以テ本項改正) (三十二) 準於前條第十三款
 勾引狀、勾留狀ヲ執行シタルトキハ其正本ニ執行シ場所
 及ヒ日時ヲ記載シ若シ執行スルコト能ハサルトキハ其事
 業由ヲ記載シテ署名捺印ス可シ(同上) 以テ本項追加) 我
 巡査、憲兵卒ニ令狀ニ關スル書類ヲ檢事ニ差出ス可シ(同
 止) 刑部省檢事長マデマ被告人ニ發遣スルハ其
 第八十四條在監中ノ被告人ニ對シ發シタル勾留狀ハ司獄
 官吏ヲシテ之ヲ執行セシム日初マ請願ニ付連又ハ裁許
 勾留狀執行ニ關シテハ第七十七條ノ規定ヲ適用スル
 第六節 證人訊問 證人ハ其
 第三百三十四條 證人出頭ニ付テハ旅費、日當ヲ要ムル
 トヲ得ルニ付シテハ其旅費、日當ハ其
 第七節 鑑定 鑑定人ハ其
 第七節 鑑定 鑑定人ハ其

第四百三十五條 鑑定人ハ旅費、日當及モ立替金ヲ辨濟スル
 第四百三十六條 鑑定人ハ其旅費、日當ハ其
 第四編 第二章 區裁判所公判
 第二百三十三條 檢事ハ何レノ場合出於テモ被告人ニ對シ呼
 出狀ヲ發シ可キトシテ裁判所ニ請求ス可シ、問也、イ
 裁判所ハ裁判所書記ヲシテ被告人ニ對シ呼出狀ヲ發セシ
 ム可シ公判ニ付テハ其旅費、日當ハ其
 第二百三十四條 呼出狀ニ答呼出ヲ受ク可キ者ハ氏名、職業、
 住所、出頭ノ日時、場所及ヒ被告事件ヲ記載シ且被告事件
 違警罪又ハ罰金ニ該ル可キ輕罪ナルトシテ代理人ヲシテ出
 頭セシムルコトヲ得ヘキ旨ヲ記載ス可シ
 若シ被告事件ノ記載ナキ場合ニ於テ被告人未タ其事件
 刑事訴訟法

付キ取調ヲ受ケザリシトモ辯護準備ヲ爲スニ日ノ猶豫
ヲ求ムルコトヲ得
第二百十五條 呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クトモ三日出
猶豫アル可シ
第二百十六條 判事ヲ豫審ヲ經サル被告事件急速ヲ要スル
トモハ公判ニ取掛ル前檢證處分ヲ爲スコトヲ得此場合ニ
於テハ檢事其他訴訟關係人ノ立會ヲ要セス出頭トモ
第二百十七條 證人ハ呼出狀ヲ送達ト出頭トノ間少クトモ
二十四時間ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼出ス可シ
又呼出ヲ受ケスシテ出頭シタル者ト雖モ異議ノ申立ナキ
トモハ裁判所ニ於テ證人トシテ其供述ヲ聽クコトヲ得
第二百十八條 前條ノ申立アリタルトモハ裁判所書記速
ニ其申立書ヲ相手方ニ送達ス可シ相手方ハ三日內ニ答辯

書ヲ差出スコトヲ得
上訴ヲ裁判ス可キ裁判所ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽キ先ツ
其申立ヲ許ス可キヤ否ヤヲ決定ス可シ
第二章 控 訴
第二百五十七條 控訴裁判所ニ於テハ訴訟關係人ニ對シ呼
出狀ヲ發シタル後其裁判ニ取掛ル可シ
呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クトモ二日ノ猶豫アル可シ
第三章 上 告
第二百七十七條 上告裁判所ハ遅クトモ最初ニ定メタル公
判期日ハ三十五日前ニ其期日ヲ上告申立人及ヒ相手方ニ
通知ス可シ但辯護士ヲ選任シタル者ニ付テハ此限ニ在ラ
ズ
最初ニ公判期日ヲ定ムル前選任シタル辯護士ニ對スル呼

出狀ノ送達 最初ニ定メ公判期日ニ差出スル間ニ少クモ三十五日ノ猶豫ヲ存ス可シ

第二百八十條 上告裁判所趣意書ヲ受取ルタル日ヨリハ速ニ其謄本ヲ相手方ニ送達ス可シ

第二百八十一條 上告相手方ニ趣意書ヲ謄本ヲ送達ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ答辯書ヲ上告裁判所ニ差出スコトヲ得

上告裁判所答辯書ヲ受取リタル日ヨリハ速ニ其謄本ヲ上告申立人ニ送達ス可シ

第四百章 抗 告

第二百九十五條 抗告ノ期間ハ裁判所送達アリタル日ヨリ三日トス

第八編 裁判執行、復権及ヒ特赦

第一章 裁判執行

第三百二十條 刑ノ執行ハ其刑ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事

又ハ上告裁判所ヨリ命ヲ受ケタル裁判所ノ檢事ノ指揮ニ依リ之ヲ爲ス可シ刑ノ執行ノ停止ニ付キ亦同シ

(刑法施行法第五十條ヲ以テ本條中改正)

罰金、科料、訴訟費用及ヒ沒收物品、追徴金ハ檢事ノ命令ニ依リ之ヲ徵收ス可シ

前項ノ徵收ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第三百二十三條 賠償及ヒ訴訟關係人ニ辨濟ス可キ訴訟費用ニ付キ其判決ノ執行ハ民事訴訟法ノ規定ニ從フ

- 一 刑事附帶私訴ノ判決ト雖モ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ正本ヲ送達スルニアラサレハ執行力ナシ(二七號決議)
- 一 召喚狀ハ實際ノ便否如何ニ拘ハラズ刑事訴訟法第七十六條第三項ノ規定ニ從ヒ送達セサルヲ得ス(四九號決議)
- 一 刑事被告事件ニ付キ其辯護人ニ書類ヲ送達スル場合ハ民事訴訟法第二百三十七條第二項ノ規定ヲ準用スルハ當然ナルヲ以テ數名ノ辯護人中ノ一名呼出狀ヲ受領シ署名捺印シタル以上ハ他ノ辯護人ニ對シテモ有效適式ノ呼出アリト認ムヘキモノトス(七〇號判例)
- 一 公訴ニ附帶シテ私訴ヲ提起シタル場合ニ於テ私訴原告人ヨリ假處分ノ申請ヲ爲ヌモ刑事裁判所ニ於テハ之カ許否ノ裁判ヲ爲スヘキモノニアラス(一五二號決議)
- 一 召喚狀ハ郵便送達ニ依ラス必ズ執達吏ヲシテ送達セシムヘキモノトス(二六號決議)
- 一 刑事裁判費用等徴收ノ爲メ檢事ノ命令ニ依リ執達吏強制執行ヲ爲シ徴收金額及ヒ執行費用ヲ徴收シタルトキハ執行費用ハ直ニ執達吏自收シ其殘額ヲ國庫ヘ納入スヘキモノトス(二一一號回答)

- 一 追徴金又ハ公訴裁判費用ノ強制執行ヲ爲スモ尙ホ其金額ヲ徴收スル能ハサル場合ニ檢事ハ被徴收者ノ家資分散ノ宣告ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス(二一八號決議)
- 一 刑事附帶ノ私訴判決ニハ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(二四八號判例)
- 一 刑事裁判費用納付ノ義務ハ相續人ニ移轉ス(二五九號決議)
- 一 召喚狀ト呼出狀トノ主要ノ差異ハ只豫審ニ付セラレタル被告人ノ呼出ニ關スルト公判ニ付セラレタル被告人ノ呼出及ヒ豫審又ハ公判ニ於ケル證人、鑑定人、通事ノ呼出ニ關スルニ在リ(谷野法學士)

◎刑事署式手續法

(大正二年四月九日 法律第二十號)

第一條 區裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ其ノ管轄ニ屬スル刑事ノ事件ニ付公判前略式命令ヲ以テ罰金又ハ科料ヲ科スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ同時ニ沒收ヲ科シ其ノ他附隨ノ處分ヲ爲スコトヲ得
署式命令ハ被告人ニ其ノ正本ヲ送達シテ之ヲ爲ス但シ裁判所書記本人ニ正本ヲ交付シタルトキハ送達アリタルモノト看做ス

第七條 略式命令ニハ罪ト爲ルヘキ事實、適用スヘキ法令ノ規定、科スヘキ刑及附隨ノ處分並正本ノ送達アリタル日ヨリ七日内ニ正式裁判ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨ヲ明示スヘシ
略式命令ノ原本ニハ裁判所及年月日ヲ記載シ判事裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

第九條 刑事訴訟法第十九條ノ規定ハ署式命令ノ送達ニ之ヲ準用ス

第十條 略式命令ヲ受ケタル者ハ正本ノ送達アリタル日ヨリ七日内ニ正式裁判ノ申立ヲ爲スコトヲ得
刑事訴訟法第十五條乃至第十七條、第二百七條第二項、第二百四十七條及第二百四十八條ノ規定ハ前項ノ申立及其ノ期間ニ之ヲ準用ス

◎陸海軍軍法會議私訴裁判強制執行法

(明治二十三年八月法律第六十七號)

第一條 軍法會議私訴裁判ノ強制執行ハ兵營艦船若クハ軍事用廳舎ニ於テ行フ場合ヲ除ク外軍法會議ノ囑託ニ因リ通常裁判所之ヲ行フ
第三條 軍法會議私訴裁判ノ強制執行ハ判決言渡書ノ正本ニ基キ之ヲ爲ス